

# 関西医科大学 広報



枚方市総合文化芸術センター関西医大 大ホールにて

## 3学部が一堂に会した卒業式

Vol.73

### CONTENTS

トピックス：入学式

P.1

大学：退任教授最終講義

P.12

トピックス：入職式

P.3

病院：附属病院市民公開講座

P.22

トピックス：卒業式

P.9

大学：「学生からの教育評価」  
表彰者コメント

P.23

## 令和8年度関西医科大学入学式

4月4日(土)10時30分から枚方市総合文化芸術センター関西医大 大ホールにおいて3学部3研究科合同の「令和8年度関西医科大学入学式」が行われました。407名の新入生(医学部117名、看護学部106名、リハビリテーション学部111名、大学院医学研究科53名、大学院看護学研究科9名、大学院生涯健康科学研究科11名)が医療の道への第一歩を踏み出しました。

### 入学式学長式辞

学長 木梨 達雄

本日、関西医科大学に入学された新入生の皆さん、入学誠におめでとうございます。今年は皆さんの入学を祝うように見事に桜が咲き誇っており、一層晴れやかな祝福の場となりました。

今年度、医学部117名、看護学部106名、リハビリテーション学部111名の計334名と大学院には医学研究科53名、看護学研究科9名、生涯健康科学研究科11名、計73名が入学されました。新入生の皆さんを迎えることは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。学部入学の皆さんは、コロナ禍のなか、高校時代を過ごし、厳しい受験を経て、見事に合格されました。これまでの皆さんの努力に敬意を表します。また、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様は心からお祝いを申し上げます。また本式典にご臨席を賜りましたご来賓の皆様は厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さんは、これから始まる出会いやキャンパスライフに大きな期待を抱いていることでしょう。関西医科大学について紹介します。

本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、昭和29年(1954年)に男女共学制の関西医科大学となりました。今年で創立98年になり、2年後に創立100周年を皆さんと一緒に迎えます。これまで医学部卒業生総数は9,161名となります。また看護学部は看護専門学校を経て、平成30年(2018年)看護学部が開設され、485名が卒業しています。さらに、令和3年度リハビリテーション学部が開設され、3学部からなる医療系複合大学となりました。現在、新入生の皆さんを加え学生総数は1,787名となり、医学部・看護学部は枚方キャンパスで、リハビリテーション学部は牧野キャンパスで勉学に励むことになります。

本学は枚方市を中心に7つの市を含む人口110万人の大阪北東部の医療圏に4つの附属の病院と2つの健診施設をもち、一日4,000人以上の患者さんを受け入れ、地

域の中核として健康・医療・介護・福祉にわたる地域医療を担うとともに、附属病院は特定機能病院として高度先進医療を実施しています。大学では、優れた医療人を育成するために、「質の高い教育」と「特色のある先端研究」に力をいれ、患者さんに寄り添う心

と、より良い治療を追求する探究心をもつ、医療人を育成することに力を入れています。関西医科大学は大学機関別認証評価適合の評価を受け、医学部では、1学年から臨床現場を体験する白衣の日の実習、先端研究を研究室で学ぶ配属実習や、国外臨床実習を取り入れています。看護学部も国外臨床実習を昨年からはじめました。看護・リハビリテーション学部では実践的な知識と技術に重点をおき、多くの学外病院施設・臨地実習、シミュレーション教育に力を入れています。3学部はメンター制度を採用し、学業に悩む学生に丁寧な教育を実施しており、昨年度は高い国家試験合格率をほとんどの分野で達成し、多くの卒業生が附属医療機関に就職しています。

高度医療を開発・実践する本学では、3学部大学院を置いて次世代の医学・医療の研究者を育成しています。医学研究科において、修士・博士課程のほか、国際大学院を開設し、アジア・アフリカ・ヨーロッパの医師が本学の全面的サポートのもと留学生として博士学位を目指した研究を行っています。すでに20名を超える海外留学生が関医タワー内の寮で生活し、今年初めて卒業生を出します。また、昨年度からイタリア・トリノ工科大学、ヴェネツィア大学とのダブルディグリーコースを設置し、医工学・情報・AIロボティクスを取り入れた高度医療を開発する人材育成を開始しました。看護学



式辞を述べる木梨学長



研究科の博士前期課程は専門看護師の受験資格が取得できる高度実践看護師コースを含めて3つのコースがあり、リハビリテーション学部では、令和7年度に設置した生涯健康科学研究科修士課程においては、小児から高齢者を対象としたリハビリテーションを研究し、今年度初めての卒業生を出します。

本学には2つの研究所があり、附属生命医学研究所では先端の機器を完備した共同実験施設があり基礎・臨床研究を支援する体制を整え、さらに令和4年度には第5のがん治療と呼ばれる光免疫療法の研究を推進する国内唯一の研究所、附属光免疫医学研究所を設けました。本学はこれらの活動をとおして、世界に開かれた大学、オンリーワンの特色ある研究を行う大学を目指しています。大学院に入学された皆さんは、研究者を目指してこれから研究活動が始まります。医療が抱える様々な課題に対して、失敗をおそれず、新たな発見や技術開発を通じて課題解決に挑んでください。研究では小さな工夫や発見の積み重ね、失敗が革新的な治療を切り開くきっかけになります。常に探究心を持って、本学から世界初の研究を発信してください。

少子高齢化が進行し、パンデミックを経た日本の社会は、確かな専門知識と技能および高い倫理感を持つ医療人を求めています。大学という学びの場でこれらを身につけていくことによって皆さん一人ひとりの能力と個性、人格が医療人という目標に向かって成長を始めます。3学部とも最終的には国家試験に合格して初めて職業人として自立でき、社会に貢献することができます。また、医学・医療の発展に終わりがなく、医療人としての学びに終わりはありません。医療人にとって正確な知識と技能・経験は何物にも代えがたく、医療人として生きていくうえで、不断に学ぶ姿勢を身につけることが何より大事です。謙虚な心で人に接し、自分に足りないものを気づかせてくれた人に敬意をはらってそれらを貪欲に吸収してください。謙虚さと感謝の気持ちから、あなたの周りに良い人間関係が生まれてきます。そして、お互いの個性を尊重しながら助け合い、優れた医療人として成し遂げたいことはなにか、常に自分の内なる声に耳を傾け、目標に向かって進んでください。

本学の建学の精神は、「慈仁心鏡」です。学歌「のぞみ」の歌詞をご覧ください。3番の歌詞に「めぐみを心の鏡となして」とあり、そこに由来しています。鏡とは一般に模範・規範の例えであり、また、物を映し出す本質から、めぐみの心を自らに映し出す・見習うという意味がでできます。慈しみ・めぐみ、思いやりといった「奉仕



新入生宣誓を行う新入生(学部)代表

の精神」「利他の精神」が医人として成長するうえで基本の心構えであることを歌っています。現代の医療は、ゲノム医学、医工学、高度なロボット技術とAI・情報学の導入によって大きな変革期に入ってきました。数値化された生命の理解から新薬の開発、病気の診断・治療の自動化が追求されていくでしょう。しかし、その背後には数に置き換えることができない患者さんご家族の苦しみ、喜怒哀楽があることを忘れてはなりません。患者さんの気持ちに共感し、患者さんに安心とのぞみをあたえることは、医療人が持つべき重要な資質であり、AIに置き換えることができない「慈仁心鏡」に通じる精神です。

今一度、学歌「のぞみ」の歌詞をご覧ください。この学歌は2期生の宮前澄子さんが本科2年生の時に作詞されたそうです。ここ枚方市を含む一帯はかつて交野が原と呼ばれ、金剛生駒山脈に連なる交野三山が交野ヶ原の背景にあり、いにしへの貴族が鷹狩りや桜狩りをした自然豊かな地です。今も豊かな森や河川が国定公園として残され、春にはカタクリの花や水芭蕉をみることができます。また、伊勢物語の「渚の院」の章には、かの有名な桜の和歌が歌われた「渚の岡」が本学近辺にあり、地名に残されています。そしてこの学歌「のぞみ」では、この由緒ある地で、医人として生きていく決意が歌われています。

関西医科大学という学び舎は、皆さんにとって医療人としての原点であり、将来にわたって皆さんの心のよりどころとなって成長を支えていきます。入学した皆さんを、学歌とともに祝えることを心から誇りに思うと同時に、皆さんの若い力がこの地で躍動することを期待いたします。日々勉学に励み、慈仁心鏡の精神を体現する医療人に成長してください。

以上、私の式辞といたします。本日は誠におめでとうございます。

## 令和8年度入職式

4月1日(水)10時から枚方市総合文化芸術センター関西医大 大ホールにおいて「令和8年度入職式」が挙行され、新入職者382名が出席しました。この日は山下敏夫理事長、木梨達雄学長をはじめ、澤田敏副理事長、齋藤貴徳常務理事、附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉山隆病院長、香里病院岡崎和一病院長、くずは病院高山康夫病院長らが臨席。

訓辞に立った理事長は、まもなく創立100周年を迎える本学および北河内地区の医療と健康を支える附属医療機関の歴史や現状を紹介。医療業界を取り巻く厳しい状況の中でも診療機能強化など発展を続ける附属医療機関や、「NEXT Oncology KMU JAPAN」の設立など新たな取り組みにも触れつつ、本学の将来展望を語り、本学が進化し続けるために、一人ひとりが関西医科大学の一

員として誇りをもち、夢の実現に協力してほしいと述べました。続いて、新入職員を代表して登壇した医学部内科学第二講座林田健太郎教授に、山下理事長から辞令が手渡されました。その後、林田教授が答辞を述べて入職式は閉式となりました。



答辞を述べる林田教授

## 就任挨拶

### 総合医療センター病院長 杉山 隆



令和8年4月に関西医科大学総合医療センターの病院長を拝命いたしました。歴史と伝統ある本学総合医療センターの運営を担うこととなり、その責任の重さに身の引き締まる思いです。現在、病院経営は物価高騰の影響に加え、医療従事者の不足や医師の働き方改革への対応など、これまでにない厳しい局面を迎えています。そのような状況においても、地域の皆さんが安心して必要な医療を受けられる体制を維持し続けることが、私たちに課せられた重要な使命であると考えております。本学附属医療機関がワンチームとして協働するとともに、関連施設との連携を一層深め、新たな地域医療構想に沿った持続可能な医療体制の構築を進めてまいります。そのうえで、患者さんにとって安心・安全で信頼できる医療を提供するとともに、ここで働く医療従事者一人ひとりが誇りと安心を持って力を発揮できる環境づくりに努めてまいります。これまで諸先輩方が築き上げてこられた当

院の歩みを大切に継承し、地域の皆さまからさらに愛され、必要とされる総合医療センターとして発展できるよう、職員の皆さまと力を合わせ、全力で取り組んでまいります。今後ともご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### 略 歴

昭和63年3月	関西医科大学卒業
昭和63年6月	三重大学医学部附属病院 研修医
平成5年3月	三重大学大学院医学研究科博士課程修了
平成6年7月	三重大学医学部産科婦人科学講座 助手
平成7年9月	米国バンダービルト大学医学部分子生理生物学 研究員
平成10年9月	三重大学医学部産科婦人科学講座 助手
平成12年3月	大阪府立母子保健総合医療センター産科 主任
平成14年4月	三重大学医学部産科婦人科学講座 助教授
平成24年8月	東北大学医学部産科婦人科学講座 准教授
平成27年9月	愛媛大学医学部産科婦人科学講座 教授
令和3年4月	愛媛大学医学部附属病院 病院長、愛媛大学 副学長
令和8年4月	関西医科大学総合医療センター 病院長

### 医学部内科学第二講座主任教授 林田 健太郎



この度内科学第二講座の主任教授を拝命した林田健太郎です。私はこれまで心臓カテーテルを専門とし、フランス留学を経て大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)分野において、アジア人初の国際指導医として本治療の普及に尽力してきました。また治験を通じ、僧帽弁閉鎖不全症や三尖弁閉鎖不全症、大動脈弁閉鎖不全症に対する経カテーテル治療の発展に取り組んできました。

また全国多施設共同研究組織であるOCEAN-SHD研究会、ならびに本領域における国際学会であるPCR Tokyo valvesを設立し、本邦において同領域を主導しつつ、国際社会への積極的な情報発信にも努めてきました。

本講座は循環器・腎臓・内分泌代謝という、いずれも生命予後に直結し、かつ「心腎代謝連関」に象徴されるように互いに深く関わる重要な領域を担っており、超高齢社会の到来に伴い、その重要性は年々高まっています。

加えて、近年の内科学は低侵襲カテーテル治療やデバイス治療、分子標的薬などを通じ、より積極的かつ高度な「治療学」へと大きく進化しています。こうした最先端医療を実践し高度な専門性を習

得するとともに、内科医としての幅広い視野と総合力を養い、臨床、研究、教育全ての分野において、日本のみならず世界で活躍できる医師の育成に注力していきます。

さらに、豊富な症例数に基づく経験の蓄積、診療科横断的かつ多職種との強固な連携、徹底した医療安全体制のもと、本邦における最先端治療を主導する「世界に冠たる循環器腎臓内分泌代謝センター」の確立を目指していきます。

#### 略 歴

平成12年	慶應義塾大学医学部卒業
平成16年	慶應義塾大学大学院医学研究科修了
平成16年	足利赤十字病院循環器内科 医員
平成19年	慶應義塾大学医学部内科学(循環器) 助教
平成21年	杏林大学医学部第二内科 助教
平成21年	Institut Cardiovasculaire Paris Sud, France留学
平成24年	慶應義塾大学医学部内科学(循環器) 特任講師
平成26年	慶應義塾大学医学部内科学(循環器) 専任講師
令和元年	慶應義塾大学医学部内科学(循環器) 特任准教授
令和6年	慶應義塾大学医学部内科学(循環器) 准教授
令和7年	慶應義塾大学医学部内科学(循環器) 病院長特命教授
令和8年	関西医科大学医学部内科学第二講座 主任教授

医学部小児科学講座新生児（附属病院）担当診療教授 西崎 直人



令和8年4月1日付で、医学部小児科学講座新生児（附属病院）担当診療教授を拝命いたしました。就任に際し、ご高配を賜りました関係の皆様へ、心より御礼申し上げます。

本学小児科学講座は昭和6年に開設され、長い歴史と豊富な実績を有し、現在は金子一成主任教授（副学長、医学部長・医学研究科長）のもと、わが国を代表する小児科学講座として発展を続けておられます。新生児分野においては、西日本の大学病院における新生児集中治療部門（NICU）の草分けとして歩みを重ね、平成18年からは近畿圏の大学病院で初の総合周産期母子医療センター・NICUとして地域医療を支えてこられました。このような伝統と責任ある環境のもとで小児医療・新生児医療に携わるとは、身に余る光栄であり、重責を改めて実感しております。

私は入局後3年間、当時順天堂で教鞭をとっておられた金子一成先生より小児科学の基礎をご指導いただきました。四半世紀を経て本日に至るご縁に、深い感慨と感謝を抱いております。専門は新生児分野の中でも、特に体外循環を用いた急性血液浄化、ならびに早産児・低出生体重児の将来の健康課題を探究するDOHaD

（Developmental Origins of Health and Disease）学です。とりわけNICU退院後の児の腎機能監視など、小児腎・泌尿器領域の診療に力を注いでおります。

少子化が進むわが国において、逆説的ですが小児科医・新生児科医の使命はますます重要となっております。今後は新生児診療を基盤に、各診療科や地域医療施設との連携、多職種との協働を一層推進し、診療・研究・教育・社会貢献に誠実に取り組んでまいります。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

略 歴

平成14年3月	順天堂大学医学部卒業
平成14年5月	順天堂大学小児科学講座 入局
平成17年9月	米国アラバマ大学バーミンハム校病理学 有給研究員
平成20年3月	順天堂大学大学院医学研究科 小児思春期発達・病態学修了
平成20年4月	埼玉県立小児医療センター 腎臓科 医員
平成22年4月	順天堂大学医学部附属静岡病院 新生児科 助教
平成25年12月	順天堂大学医学部附属浦安病院 小児科 助教
平成29年8月	順天堂大学医学部附属浦安病院 小児科 准教授
令和5年8月	順天堂大学医学部附属浦安病院 小児科 先任准教授
令和8年4月	関西医科大学医学部小児科学講座 新生児（附属病院）担当 診療教授

医学部産科学・婦人科学講座理事長特命教授 北 正人



この度、令和8年4月1日付で理事長特命教授を拝命することとなりました。

平成26年6月に本学に診療教授として着任して以来、主に婦人科のがん診療・手術の最前線、臨床・研究・教育に携わってまいりました。この間に、産婦人科医療を取り巻く環境は劇的な変化を遂げました。遺伝子診断や分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬などの登場、さらにはロボット手術をはじめとする低侵襲な手術手技の普及など、かつては困難であった治療が次々と現実のものとなりました。

当科におきましても、こうした最新の技術をいち早く取り入れ、最善の医療を追求してまいりました。また、当科独自の取り組みである「腔内視鏡」「抗癌剤併用癌手術療法」「光線力学療法」、さらには新しい医療機器の開発など、関西医科大学ならではの強みを活かした先進的な試みにも、教員とともに情熱を持って取り組んでまいりました。

こうした活動ができましたのは、何より我々を信頼して治療を任せてくださった患者さん、そして志を同じくして共に歩んでくれた

教員や病院・大学の支えがあったからこそです。皆様の温かなご協力ご厚情に、心より深く感謝申し上げます。

新しい職位におきましても、これまでの経験を活かし、本学の診療をさらに発展させるとともに、その成果を広く社会へと発信していく所存です。

立場は変わりますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

略 歴

昭和61年	京都大学医学部卒業
昭和61年	京都大学医学部婦人科学産科学教室
平成7年	京都通信病院産婦人科 主任医長
平成12年	京都大学医学部附属病院婦人科 病棟医長
平成14年	MD Anderson Cancer Center, Visiting professor
平成14年	神戸市立中央市民病院産婦人科 医長
平成19年	神戸市立医療センター中央市民病院（同上改称）産婦人科 部長
平成22年	関西医科大学医学部産科学・婦人科学講座 臨床教授（併任）
平成22年	Asan Medical Center, International Visiting Scholars
平成26年	関西医科大学医学部産科学・婦人科学講座 診療教授
令和8年	関西医科大学医学部産科学・婦人科学講座 理事長特命教授

医学部救急医学講座主任教授 中森 靖



令和8年4月に医学部救急医学講座主任教授を拝命しました中森です。大学卒業後31年間、救命救急センターで臨床活動を中心にやってきました。関西医科大学総合医療センターで過ごした13年間では、Two-room型Hybrid ER（CT、Angio一体型救急初療室）の開発、Hybrid ERでの診療をサポートする統合型ビューアー Cockpit for ER の開発に携わり、AIを活用した診療支援システムの開発プロジェクトも現在

進行中です。集中治療領域のrefeeding症候群の病態解明、さらにrefeeding症候群をおこしにくい新規経腸栄養剤の開発、新規栄養剤の優位性を示す臨床研究につなげました。多くの救急患者を受け入れ、臨床研究につなげ、さらには新たな治療法を開発し、それを新規患者に還元するというサイクルを回すことで、関西医科大学のさらなる発展、救急医療、地域医療に貢献できるよう精進してまいります。

略 歴

平成7年3月	大阪大学医学部医学科卒業
平成7年6月	大阪大学医学部附属病院 特殊救急部 研修医
平成8年6月	大阪警察病院外科 レジデント
平成10年6月	大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 医員
平成15年3月	大阪大学大学院医学系研究科修了
平成15年8月	大阪府立急性期・総合医療センター 高度救命救急センター 診療主任
平成23年4月	大阪府立急性期・総合医療センター 高度救命救急センター 副部長
平成25年4月	関西医科大学 救急医学講座 准教授
平成25年11月	関西医科大学附属滝井病院 病院教授・救急医学科 部長
平成28年5月	関西医科大学総合医療センター 総合集中治療部部長兼任
平成29年4月	関西医科大学総合医療センター 診療教授
平成31年4月	関西医科大学総合医療センター 副病院長
令和8年4月	関西医科大学医学部救急医学講座 主任教授

## 医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座理事長特命教授 楠 威志



令和8年4月1日付で、医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座理事長特命教授、診療部長、甲状腺外科センター長を拝命し、総合医療センターに勤務することになりました。

私は、昭和61年3月に近畿大学医学部を卒業し、同年より近畿大学医学部耳鼻咽喉科に入局しました。その後、高知大学、ミネソタ大学、順天堂大学そして、このたび当院へと、5回目の大学病院勤務となりました。

診療面では、昭和63年1年間、甲状腺専門病院である別府野口病院で研鑽を積み、以降平均年間20-30例甲状腺手術をこなしております。また、喉頭疾患や音声訓練にも従事し、特に難治とされている心因性発声障害については、ほぼ全例、3カ月以内と早期に治癒させています。本音声訓練の基本となる鼻呼吸と腹式呼吸は、音声のみならず、嚥下、呼吸器、消化器そしてメンタルなど耳鼻咽喉科疾患以外の領域にも良い影響を及ぼすことを、10数年前から市民講座などで啓蒙してきました。参加者には、患者さんと同様、言葉だけではなく、体で鼻呼吸と腹式呼吸の良さを覚えてもらうようにしています。そのほかの頭頸部腫瘍、耳疾患、鼻疾患にも携わり1例1例大事に診療しています。そこで、新しい知見を見出し、教訓を得れば論文としてまとめ、たえず反省し、新しい治療戦略を模索しています。今後もこれまで臨床および研究で得た知識と経験を基に、若手医師を育成し、彼らと共に地域医療に還元していく所存ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 略歴

昭和61年3月	近畿大学医学部卒業
昭和61年6月	近畿大学医学部耳鼻咽喉科 研修医
昭和63年4月	近畿大学医学部大学院入学
昭和63年7月~平成元年3月	別府野口病院 医員
平成4年3月	近畿大学医学部大学院修了
平成4年4月	近畿大学医学部耳鼻咽喉科 助手
平成6年1月	新金岡豊川総合病院耳鼻咽喉科 医員
平成7年4月	高知大学医学部耳鼻咽喉科 医員
平成7年5月	高知大学医学部手術部 助手
平成8年4月	公立仁淀病院耳鼻咽喉科 医長
平成9年4月	近畿大学医学部耳鼻咽喉科 助手
平成9年11月	近畿大学医学部耳鼻咽喉科 講師
平成14年10月	ミネソタ大学耳鼻咽喉科側頭骨病理研究室(リサーチフェロー)
平成16年6月	近畿大学耳鼻咽喉科 講師
平成19年9月	順天堂大学医学部耳鼻咽喉科(本院) 准教授
平成20年12月	順天堂大学医学部耳鼻咽喉科(本院) 前任准教授
平成25年4月	順天堂大学医学部附属静岡病院耳鼻咽喉科 前任准教授・科長
平成27年1月	順天堂大学医学部附属静岡病院 教授・科長
令和8年4月	関西医科大学総合医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療部長・理事長特命教授・甲状腺外科センター長(併任)

## 看護学部長・看護学研究科長 三木 明子



令和8年4月1日付で看護学学部長・看護学研究科研究科長を拝命いたしました。私の専門分野は産業精神保健、精神保健看護です。約30年にわたるIT企業の嘱託産業看護職としての活動を通じ、働く人々のメンタルヘルス支援を一貫して探究・実践してまいりました。

本学におきましては、平成30年4月の看護学部、大学院看護学研究科博士前期課程、博士後期課程の3コース同時開設時より精神看護学領域の教授として着任し、教育・研究に邁進してまいりました。着任2年後に発生した新型コロナウイルス感染症の流行下では、看護学部学生副部長として、学生の健康維持と学修環境の確保を最優先で尽力いたしました。

この4年間は、看護学部の入試副センター長および広報委員長として、学部のブランド力向上に注力してまいりました。その結果、現在は関西圏の私立大学のトップグループに位置するまでに成長

し、志願者数も2,000人を超え過去最多を更新するに至っております。

今後はこれまでの経験を礎に、看護学部・看護学研究科のさらなる発展に寄与すべく、誠心誠意、精進してまいる所存です。引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 略歴

平成6年3月	東京大学医学部保健学科卒業
平成8年3月	東京大学大学院医学系研究科修士課程修了
平成11年3月	東京大学大学院医学系研究科博士課程修了(精神保健学・看護学分野) 博士(保健学)
平成11年4月	宮城大学看護学部看護学科 講師
平成13年8月	岡山大学医学部保健学科 講師/助教授
平成17年4月	筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授
平成30年4月	関西医科大学看護学部・看護学研究科 精神看護学領域 教授
令和6年4月	関西医科大学看護学部学部長補佐
令和8年4月	関西医科大学看護学部学部長・看護学研究科研究科長

## 看護学部母性(助産)看護学領域教授 野原 留美



令和8年4月1日付で関西医科大学看護学部母性(助産)看護学領域の教授を拝命いたしました。

大阪府立助産婦学院(現 大阪公立大学看護学部)を卒業後、臨床助産師として周産期医療に従事した後、大阪市立大学(現 大阪公立大学)大学院生活科学研究科に進学し、家族社会学の教授のご指導のもと母子と家族を「地域で生活する存在」として捉える視点を大切にしながら、研究と助産師教育に取り組んでまいりました。

特に、分娩期におけるシミュレーション教育の導入や教育方法の検討を通して、学生の実践力と臨床判断力の育成に努めてまいりました。

近年は、妊娠期から育児期へと連続する支援の重要性に着目し、ICTを活用して学生の妊婦支援や保健指導力の向上に関する研究にも取り組んでおります。これらの取り組みを通して、助産師が対象者の生活に寄り添いながら専門性を発揮するための新たな教育・支援の在り方を探究してまいりました。今後は、これまでの教育・研究の成果を基盤として、本学の理念に根ざした実践的かつ発展的な看護師・助産師基礎教育の充実に努めるとともに、多職種連携や地域との協働を推進し、社会のニーズに応える人材育成と研究の発展

に貢献してまいります。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくようお願い申し上げます。

## 略歴

平成6年3月	大阪府立助産婦学院卒業
平成6年4月	神戸アドベンチスト病院 助産師
平成8年4月	医療法人正木産婦人科 助産師
平成9年4月	大谷助産院 助産師
平成15年12月	のほら助産所 助産師
平成20年3月	大阪市立大学大学院生活科学研究科生活科学専攻前期博士課程修了
平成22年4月	白鳳女子短期大学専攻科助産学専攻 講師
平成23年4月	千里金蘭大学看護学部看護学母性看護学・助産学領域 助教
平成26年3月	大阪市立大学大学院生活科学研究科生活科学専攻後期博士課程単位取得後退学
平成26年4月	千里金蘭大学看護学部看護学母性看護学・助産学領域 講師
平成30年4月	甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科助産学領域 准教授
令和4年4月	香川大学医学部看護学母性看護学領域 准教授
令和6年4月	香川大学大学院医学系研究科助産学コース 教務主任・准教授
令和8年4月	関西医科大学看護学部母性(助産)看護学領域 教授

## 退任挨拶

### 総合医療センター前病院長 杉浦 哲朗



この度、令和8年3月31日をもって、関西医科大学総合医療センターの病院長職を退任いたしました。4期8年間にわたる任期を満了できましたのも多くの教職員を始め、関係の皆様のご多大な御協力と御支援の賜物と心から感謝いたします。

総合医療センターは令和2年度よりDPC特定病院群(Ⅱ群病院)に昇格し、さらに地域医療支援病院の指定を受けたことにより地域に密着した高水準の医療を提供できるものと確信した矢先に新型コロナウイルスが日本に上陸しました。令和2年3月17日に大阪府から要請があり、コロナ対応と通常救急対応を両立できる体制に救命セ

ンターを整えました。3月下旬に1例目の重症患者が搬送されて以来、4年間にわたり重症・中等症コロナ患者2,500名以上に対応いたしました。この未曾有のコロナ禍を乗り越えられたのも「オール関西医大」でバックアップしていただいたおかげと感謝しております。

「ポストコロナ」時代の現在、医療経費の増大や人件費の増加により病院経営が厳しくなっております。この様な状況下、医療収入の増加による病院経営改善を目指しておりましたがまだ道半ばでありこの課題を杉山病院長に委ねたいと思っております。

最後になりましたが、すべての教職員の皆様のご健康と関西医科大学の益々のご発展を祈念いたします。

### 医学部脳神経内科学講座前診療教授 近藤 誉之



このたび退任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。私は平成28年10月に本院へ赴任して以来、地域における神経難病診療の充実に努めてまいりました。とくにパーキンソン病をはじめとする神経変性疾患については、地域の医療機関の先生方と連携しながら診療にあたり、神経難病の受け皿となることを目標に取り組んでまいりました。

一方で、私の専門とする多発性硬化症、視神経脊髄炎関連疾患、重症筋無力症などの神経免疫疾患については、関西のみならず日本各地から患者さんをご紹介いただき、専門的な診療を行ってまいりました。遠方から来院される患者さんも多く、専門診療の拠点とし

ての役割を果たすことができたことを大変ありがたく思っております。

また、これらの疾患の病態解明や診断法の開発を目指した臨床研究、免疫学的研究にも取り組み、多くの先生方やスタッフの皆様のご協力のもと研究活動を進めることができました。日々の診療の中から得られる疑問を研究へとつなげることができたことは、私にとって大きな財産であります。

今後は神経難病センター長として本院にて診療を続け、これまでの経験を生かしながら神経難病診療の発展に引き続き貢献していきたいと考えております。これまで賜りましたご支援、ご厚情に深く御礼申し上げます。

### 医学部心臓血管外科学講座前診療教授 駒井 宏好



本年3月をもって定年退職いたします駒井です。赴任から一貫して血管疾患の診療に携わってまいりました。世界では独立した「血管外科」として診療していますが日本では心臓から独立して血管外科の診療・教育・研究を行っている大学病院はいまだに数施設しかありません。そういう状況の中で関西医科大学は平成25年に血管外科に特化した診療科を新設されたことは画期的であります。私も「教授」ポストをいただいたおかげで、夢であった「末梢血管外科といえは関西医大」に少しでも近づけたかと考えています。関西医大の、このご英断に非常に感謝しております。また、血管診療は決して単独診療科では成し遂げられません。関西医大赴任後は周りの多くの診療科

の先生がた、フットケアに携わる看護師、検査技師、放射線技師、理学療法士、臨床工学技士のみならず多大なるご協力をいただき、感謝しております。任期後半は学会の要職についたこともあり、海外出張なども多くなりました。その間変わらぬ成績で診療業務を支えてくれた、同僚の医師たちにも深く感謝いたします。その甲斐あって関西医大の名は国際的にも広げられたかと自負しております。私は赴任時に「3年で学内に、6年で地域に、9年で全国に」信頼される血管外科を、と目標を述べました。この13年間でどこまでこれが成し得たかはみなさまのご判断を仰ぐこととなりますが、今後も後輩がこの精神を引き継いでくれると信じております。長い間本当にありがとうございました。

## 医学部整形外科学講座前教授 齋藤 貴徳



平成29年4月に関西医科大学整形外科学講座の主任教授を拝命してから本年3月まで9年間講座主任として皆様には大変お世話になりました。

私は関西医科大学を昭和58年に卒業し、大学の整形外科に初代森益太教授の最後の年に入局し、以後、小川克恵第2代教授、飯田寛和第3代教授の時代に整形外科の研鑽を積んでまいりました。その間、附属病院本院(滝井時代)、附属男山病院、附属滝井病院(後に総合医療センター)と全て附属病院内で勤務してまいりました。その間、多くの職員の方々に助けられ、多くの患者さんの治療に当たってきました。外来が翌朝まで続いたことや、手術を夜12時まで行っていたことが懐かしく思い出されます。これらは全て看護師、薬剤師、放射線技師、臨

床工学士など、私の周りで整形外科を支援していただいた多くの職員の助けがあってこそなり立っていたと今更ながら感謝する次第です。教授に就任してからは医局運営と共に、附属病院の副病院長、大学の副学長として忙しい毎日を送ってまいりましたが、やりがいのある仕事を与えられた幸せをかみしめながら、支援していただいた各委員会や作業部会の皆様と全力で走ってまいりました。これからは附属病院にて脊椎神経センターのセンター長として残ることになりましたので、もう少し患者さんの幸せのために努力していこうと考えています。

整形外科は多くの若手が順調に育ってくれています。今後も森田充浩新教授の下、一層病院や大学に貢献していってくれると確信しております。今後も関西医科大学整形外科学講座に一層のご支援を賜りますよう心からお願いし私の退任の挨拶とさせていただきます。

## 医学部救急医学講座前教授 鋤方 安行



本学の救急医学科は昭和54年に発足しましたが、講座化されたのは平成25年のことで、幸運なことに私はその初代講座主任として大阪大学の救急医学より赴任させていただきました。当初は講座員の激減にみまわれるなど多難な船出でしたが、講座立ち上げについてきてくれた中森、早川、和田、それに齋藤、櫻本など残ってくれた人材と力を合わせ、なんとか枚方、滝井両方の救命救急センターを運営しつつ、講座としての体裁を整えていきました。幸い、新講座2年目からは2名前後/年の着実な新入局員にめぐまれるとともに、かつて私が指導した後輩たちも当講座に魅力を感じ次々と集まってきてくれ、診療・教育指導体制が充実しました。その結果、現在では学

内講座員は35名になりました。なにより、代替わりを迎える次年度にむけて、例年以上の新入局者がいることは心強く、現在までの道のりが間違っていなかったと実感しています。救急医学は地方行政や消防救急との日常的なやりとりが必須の業務となる、きわめて社会的な側面も有しています。現体制の13年間はこの観点からも地域の信頼を得てきたと自負しています。在任中は、府内の救急医療でのプレゼンス、そして救急医学会内での確かな地盤を築くところまでが精一杯でしたが、次期体制にはCOVIDを乗り切った実績やHybrid ERでの重症外傷診療成績などを背景として是非、世界に冠たる救急医学教室をめざし、更なる発展を遂げていただきたいと念じています。

## 香里病院腎臓病センター前理事長特命教授 高橋 延行



このたび令和8年3月末日を持ちまして関西医科大学香里病院腎臓病センター理事長特命教授を退任いたすことになりました。腎臓病センターは平成22年香里病院開院とともにスタートし当初からセンター長を務めさせていただきました。外来維持血液透析を大学病院が行うことはわが国でも例が少なくうまく行くかどうか不安でしたが、幸いにも有能なスタッフに恵まれ順調にスタートを切り年々実績を積みことができました。令和4年からは理事長特命教授として職務を継続する機会をいただきましたが、慢性腎臓病重症化予防対策の普及によりわが国全体で慢性透析患者数が減少し始め、当院でも患者さんの確保に苦慮し、山下理事長、岡崎病院長にご心配をおかけしま

したことは遺憾でした。学術的には探求心旺盛な臨床工学技士とともに大阪透析研究会、日本透析医学会にいくつかの研究発表を行うことができました。私自身は透析患者の心血管疾患に興味があり、主に心不全管理、心臓突然死の原因究明に興味を持ってやってきました。学会や研究会ではその領域の高名な先生方と意見交換できる機会を持つことができましたのも関西医科大学に籍を置いていたおかげと感謝しております。

最後に長年ご指導いただきました諸先生方、私と一緒に腎臓病センターを盛り立ててくれた多くのスタッフに厚くお礼を申し上げますと共に、私を育ててくれました関西医科大学の益々の発展を祈念いたします。

## 前看護学部長・看護学研究科長 / こども看護学領域前教授 加藤 令子



令和8年3月末日をもちまして関西医科大学看護学部長・大学院看護学研究科長、こども看護学領域教授を退任いたします。

平成28年4月に関西医科大学看護学部設置準備室・医学教育センター教授に就任、平成30年4月より、関西医科大学看護学部、大学院看護学研究科こども看護学領域教授に着任いたしました。また、令和4年度より、看護学部長・大学院看護学研究科長、および、関西医科大学評議員に就任、令和5年7月からは理事として大学運営に関わらせていただきました。この10年間で関西医科大学は医療系複合大学となり、経営・教育・研究面等での発展は素晴らしいものがあり、この期間に本学で教員として活動できましたことに感謝いたしております。

看護学部長就任後は、教育の質向上のため、全領域でのシミュレーション教育とOSCE導入および臨床看護学教員制度を開始しました。また、令和6年度よりMinnesota State University, Mankato校とMOUを締結、学生の短期留学と教員間での教育・研究の交流が可能となりました。大学院看護学研究科長としては、博士後期課程において令和9年度にDoctor of Nursing Practice (DNP)コース開設に向けた準備を行ってまいりました。

私個人としては、令和6年7月に大阪府開催が初めてとなる日本小児看護学会学術集会の第34回学術集会会長を務めさせていただき、盛会に終了することができました。

10年間多くの方にお世話になりましたことに感謝申し上げます。今後の関西医科大学の益々のご発展と皆様のご健康を心より祈念いたします。

## 看護学部母性（助産）看護学領域前教授 酒井 ひろ子



このたび令和8年3月末日をもちまして退職することとなりました。平成30年度の看護学部開設時に着任して以来、8年間にわたり本学にて教育・研究に携わる機会をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

在職中は、統合カリキュラムにおける助産師教育や、女性の健康をテーマとする大学院生への研究指導に携わるとともに、虐待防止や外国人母子支援などの地域・国際貢献にも継続して関わらせていただきました。学生や大学院生とともに学び、研究や実践を重ねる日々は、私にとって大変かけがえのない時間でした。様々な場面で門戸を開き、活動の機会を与えてくださったことに深く感謝申し上げます。

これらの活動を続けることができたのも、先生方ならびに事務職の皆様のご支援と励ましのおかげです。日々支えていただきましたことに、心より御礼申し上げます。

退任後は、これまでの経験を活かし、国内外の女性や母子の健康課題に向き合いながら、尊重・安全・ホリスティックな視点、そしてパートナーシップを基盤としたWomen-centered care (女性主体のケア)の理念のもと、教育・研究・社会活動を通して引き続き貢献できるよう努めてまいります。

最後になりましたが、関西医科大学のますますのご発展と、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。長きにわたり温かく支えていただき、本当にありがとうございました。

## 看護学部在宅看護学領域前教授 李 錦純



この度、令和8年3月末日をもちまして、関西医科大学を退職させていただくことになりました。平成30年4月の看護学部・大学院看護学研究科の開設から、8年間お世話になりました。皆様方にはこれまで大変なご厚情を賜り、心から感謝申し上げます。

1期生から8期生に至るまで、学生とともに学び、成長していく姿を見守ることができたことは、私にとって大きな喜びでした。また、在宅看護学領域における学部や大学院の専門看護師教育課程の立ち上げなど、草創期の基盤づくりに携わる機会をいただけたことは、かけがえのない貴重な体験となりました。令和4年度からは領域教授として、大学院博士後期課程の教育や大学運営にも関わる機

会をいただきました。その責任の重さを日々感じながら務めてまいりましたが、多くの教職員の皆様を支えていただきながら今日まで続けることができました。

在宅看護は生活の場において療養者と家族を支え、その人らしい生活の継続を支援する看護実践であり、地域包括ケアシステムを支える重要な領域だと考えています。本学で学んだ学生の皆さんが、地域で生活する人々を支える看護職として活躍されることを願ってやみません。

ここまで支えてくださった皆様方に心より深く感謝申し上げます。皆様方のご健勝とご多幸、そして関西医科大学のますますのご発展を心より祈念いたします。

## 令和7年度関西医科大学卒業式

3月11日(水) 13時から枚方市総合文化芸術センター関西医大 大ホールにおいて「令和7年度関西医科大学卒業式」が執り行われました。今年度から3学部合同で行われ、医学部卒業生109名、看護学部卒業生109名、リハビリテーション学部卒業生83名が式に臨みました。木梨学長の式辞の後、学部ごとに会場を移動し、医学部卒業生は枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂、看護学部卒業生は枚方キャンパス医学部棟試験・実習室、リハビリテーション学部卒業生は枚方キャンパス医学部棟第二・第三講義室に集まりました。それぞれの会場で各学部長の祝辞が述べられ、卒業生にエールが贈られました。

### 学長式辞

学長 木梨 達雄

春の香りに心が弾むなか、本日ここに卒業式を迎えられた医学部、看護学部、リハビリテーション学部の皆さんに、本学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。また、ご家族をはじめ皆さんを支えてこられた方々にも、感謝を込めてお祝いを申し上げたいと思います。

今回はじめて3学部合同で卒業式を行います。医学部109名、看護学部109名、リハビリテーション学部83名、合計301名が、本日をもって関西医科大学から社会へ巣立っていくことを一同に会して、盛大にお祝いすることができ、我々教職員の喜びは一層大きいものになりました。皆さんの卒業は、単科医科大学であった関西医科大学が医学、看護、リハビリテーションの3つの学部をもつ医療系複合大学に着実に進化したことを如実に示すものです。

振り返って、皆さんが入学したときに抱いた気持ちはどんなものだったのでしょうか。関西医科大学という新鮮な学びの場で、新しい友人をつくり、仲間とともに医療人を目指して勉学や課外活動などに励む、そのような大学生活に対する期待や夢に胸を膨らませていたことでしょうか。我々も皆さんの期待に応えるべく、講義や実習のカリキュラムや指導法に心を砕き、講義室、自習室の整備や、IT機器を配備し、メンターによるサポートを充実させて、パンデミックにも負けない学びの環境や支援を向上させてきました。しかし、医学・看護・リハビリの知識を積み重ね、実践を通して学び、最終的に国家試験に挑戦していく過程は皆さんの想像以上に大変だったのではないかと思います。悔しい思いやふがない自分に涙し、挫折感を味わったこともあったでしょう。我々教員もその思いを受け止め、ともに悩んできました。そして、多くの試練を乗り越えて、この場に集い、卒業し、無事に国家試験に合格して社会へと羽ばたいていくとき、成長には不安や苦しみが伴うものであり、その過程を友人と切磋琢磨しながら、最後は自分自身の力で乗り越えることが必要な事であったと振り返るのではないのでしょうか。自己に向き合い、自分の成長に必要なものは何か、悩みながら前に進んだ経験は、これからさらに成長を目指す皆さんの内なる励みになることでしょうか。

日本の医療は大きな変革期にあります。少子・高齢化による高齢人口の増加、若年人口減少と、医師の地域・診療

科の偏在化が静かにかつ着実に進行しています。医療を支える人材不足と経済的要因により病院経営が困難になるなか、がんや認知症、フレイルなどの慢性的疾患や感染症への対策が重要となりました。皆さんの在学中であった2020年代前半を振り返ると、ゲノム医学による個別化医療が進み、分子標的薬、抗体医薬、核酸ワクチン、そして本学が推進している光免疫療法など、難病に対する新たな治療法が次々と開発され発展しています。また、低侵襲の内視鏡・カテーテル手術、先進的なロボット手術、リハビリテーション技術などの医工学的応用、ヒトゲノムやパンデミック解析に威力を発揮したデータサイエンスの手法が医学・医療の分野でますます重要になりました。

これらの医療の発展とともに、パンデミックを機会に情報通信網が整備され、リモート学習が円滑に実施されるようになりました。加えて生成AIなどの対話型人工知能が進化し、人間の知的活動の多くを代替できるようになり、学びや仕事の仕方を大きく変えつつあります。医療も例外ではなく、これらの技術革新は着実に医療をより正確・精密かつ安全に、効率の良いものにして、国民すべてに質の高い医療を提供することが期待されています。本学および附属医療機関も社会の要請に呼応し、あるいは先んじて教育・研究・診療の高度化を加速しています。

このような背景のなか、医学部卒業生は、これから初期研修に進み、総合医や特定の診療科の専門医を取得し、地域医療に進む人、あるいは高度医療の実践を目指す人、高度医療につながる研究の道に進む人、あるいは、医療行政に転じて社会貢献をめざす人もいるでしょう。看護、リハビリテーションでは、あらゆる年代の人々、あらゆる健康状態にある人々への実践が求められており、責任は重大です。専門的な知識と技術をもって、医師と連携し、生命の危機的状況にある人、療養期の人、障害を持つ人を助けるなど、患者さんにもっとも身近にいるものとして、患者さ



式辞を述べる木梨学長

んの速やかな回復と社会生活への復帰をサポートする役割が求められています。

我々教職員は、皆さんを建学の精神「慈仁心鏡」慈しみ、めぐみ、愛を心の規範として、「自由・自律・自学」の学風のもと、患者さんに寄り添う心と探求心を持った医療人をモットーとして教育し、皆さんはそれを学んで、ここに至りました。社会は、皆さんの活躍を求めています。変革期にある社会は多くの矛盾に直面しており、その中で医療人は安心して暮らすことができる社会の基盤として国民の負託に応えなくてはなりません。医療現場では円滑なコミュニケーションでチーム医療を実践し、患者さんには笑顔をもって接し、安心と希望を与えること、患者さんからの感謝を糧に自己研鑽に励み、より良い医療を実践すること、これは医療人が持つべき重要な資質であり、AIに置き換えることができない、「慈仁心鏡」に通じる精神です。そして標準の治療を施して事足りりとするのではなく、治らぬ病気なら、治す方法を考えるのが医学の原点であることを忘

れずに、自分の心に響く目標、追求したい課題を抱いたならば、それが次の飛躍に向けた、あなたへの合図です。

そのような志をもった医療人、学生のために、本学は3学部に大学院を設置し、附属研究所・センターには先端の研究環境を整え、優秀な教員、医師が集い、附属病院を実践の場として、次世代の医療を開発しています。医学・医療の発展の裏側ではたくさんの試行錯誤と熱意が隠れています。良い師を求め、その「熱意」や「問う力」、「探求心」にも触れてください。今度はあなたのなかに、自分が貢献できる場所が生まれ、次の飛躍を促すでしょう。

我々教員一同は、卒業後の皆さんの成長を今後も見守り、いつでも学びと成長の場として再び迎えることができる場であるように、本学の発展を期すとともに、本学での学びを糧に国内外を問わず、広く活躍する医療人として大きく成長することを願ってやみません。

以上、私の式辞といたします。

..... **医学部長祝辞** .....

医

医学部長 金子 一成

本日、柔らかな春の日差しが降り注ぐ中、晴れて卒業の日を迎えられた医学部第94期の卒業生の皆さん、誠におめでとうございます。また、今日まで皆さんの歩みを慈しみ、時には厳しく、常に温かく支えてこられたご家族、ご親族の皆様に対し、医学部を代表して心よりお祝い申し上げます。

今から6年前の令和2年4月、皆さんは、医師になるという高い志と期待を胸に、本学の門を叩きました。しかし、その門出を待っていたのは、華やかな入学式ではなく、コロナ禍で緊急事態宣言が発令されたためのリモート入学式でした。

本来ならば、新しい友人たちと語り合い、キャンパスの空気を吸いながら「医学生」になった実感を噛みしめるはずの入学式と新学期でした。しかし現実には皆さんの期待するものではありませんでした。皆さんは自宅の画面越しに、孤独の中で膨大な知識と向き合うことを余儀なくされました。人との接触が「リスク」とされる中、皆さんは「自分たちは本当に医師になれるのだろうか」という不安を持ったはずです。

そのような未曾有の時代に医学を学ばれた皆さんだからこそ、得られた財産があります。それは「人」という財産です。わが国には「人は財産」という言葉がありますが、この言葉を、今日、皆さんに2つの意味で贈りたいと思います。

一つ目は、「これから出会う患者さん」という財産です。本学の建学の精神である「慈仁心鏡」とは、相手の苦しみを自分のものとして受け止める慈しみの心です。皆さんがパンデミックの中で感じたあの孤独や不安は、病床で社会から切り離され、一人、病と闘う患者さんの孤独に通じています。一人の人間としての患者さんの生き様、苦悩、そして回復への願い。それらを受け止める経験の一つひとつ

が、皆さんを良医へと成長させてくれます。目の前の一人の患者さんを大切にし、その出会いを自らの血肉としていくことの積み重ねこそが、医師としての豊かなキャリアという財産を築く唯一の道です。

二つ目は、「ここにいる同期の仲間」という財産です。「人は財産」の真髄は、互いに高め合える仲間の存在にあります。皆さんは、対面で会うことさえ許されなかった日々を知っているからこそ、隣にいる友人と議論し、笑い合えることの尊さを誰よりも理解しているはずです。これから研修医として現場に出れば、自分の無力さに打ちひしがれる日もあるでしょう。そんな時、同じ苦勞を共有し、同じ時代を駆け抜けた仲間の顔を思い出してください。生涯にわたって支え合い、切磋琢磨できる友人がいること以上に、価値のある財産はありません。

医学は日進月歩です。皆さんが今持っている知識も、数年後には古びたものになるかもしれません。しかし2020年という混乱の年に医学の道を歩み始めた皆さんは、変化に適應する術をすでに身につけています。謙虚に、そして貪欲に学び続ける「生涯学習者」であってください。

コロナ禍を乗り切った皆さんは本学の誇りです。これから先、どんなに高い壁にぶつかっても、「人は財産」という言葉を胸に、人を愛し、患者さんを思いやり、仲間と助け合いながら、力強く歩んでいってください。皆さんのこれ



祝辞を述べる金子学部長

からの医師人生が、豊かなものであることを心より願っています。そしていつか、皆さんが次世代の若者たちに対し、「あの2020年から始まった6年間で、自分を強い医師にして

くれたのだ」と誇りを持って語ってくれることを期待し、私の祝辞といたします。

卒業、本当におめでとう。

看

## 看護学部長祝辞

看護学部長 加藤 令子

本日、ご卒業を迎えられた109名の卒業生の皆様、おめでとうございます。そして、これまで支えてこられたご家族・保護者の皆様にも心よりお慶びを申し上げます。

皆様は、これまでの1～4期生のカリキュラムとは異なる新カリキュラムで学んでいただきました。新カリキュラムではありましたが、本学部の目指す教育は、時代や地域を越えて通用する「看護の力」を培うことであり、このカリキュラムは、主に個人の生活や健康に焦点を当て、その人個人や家族を対象にしたケア構築を学ぶ教育と、人々の生活や健康を地域という集団で捉え、政策的な集団へのアプローチを通して人々の健康の維持増進を学ぶ教育とが統合されたものです。本学部で学ばれた皆様は、この両方の視点を持ち、時代や地域を越えて通用する知識や実践の基礎およびその活用方法を修得され、多くの方の期待のもと、本日、本学を卒業されます。

現在の世界規模での社会環境の変化は著しく、戦争や紛争、大規模自然災害の発生による、生命の危険や健康への影響が深刻な状況となっています。国際看護師協会は、看護について「看護ケアは公平で包摂的な伝統と実践、および多様性の尊重に深く根ざしている」という認識のもと、看護師は一貫して次の4つの基本的な看護の責任を意識してきた。すなわち、健康の増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和と尊厳ある死の推奨である。看護のニーズは普遍的である。看護には、文化的権利、生存と選択の権利、尊厳を保つ権利、そして敬意のこもった対応を受ける権利などの人権を尊重することが、その本質として備わっている。看護ケアは、年齢、皮膚の色、文化、民族、障害や疾病、ジェ

ンダー、性的指向、国籍、政治、言語、人種、宗教的・精神的信条、法的・経済的・社会的地位を尊重するものであり、これらを理由に制約されるものではない。看護師は、個人、家族、地域社会および集団の健康を、地域・国・世界の各レベルで向上させているその貢献に対し、評価され、敬意を持たれる存在である。」と定めています。



祝辞を述べる加藤学部長

皆様には日々のケアだけではなく、国際的な視野をもち、未来の社会や人々のために、自分が何に貢献できるのか、また、どのように貢献できるのかを考え、医療従事者としての知見を広げ、柔軟な思考のもとで看護について考えていただくことを期待いたします。

学びを深めたいと考えた時には、是非、本学の大学院で学び、さらなる看護の知を探求し、高度な実践力を修得していただきたいと思います。本大学院博士後期課程は2027年度に看護実践家の最高学位となるDoctor of Nursing Practice (DNP)の教育を開始予定です。将来、是非このコースを目指していただきたいと思います。

本学の卒業生であることに誇りを持ち、今後は様々なことにチャレンジし、専門職者として自己成長に努めていただくことを期待して祝辞といたします。

ご卒業おめでとうございます。

リ

## リハビリテーション学部長祝辞

リハビリテーション学部長 飯田 寛和

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは関西医科大学リハビリテーション学部の2期生として、4年間牧野学舎で学業に励まれ様々なご苦労があったと思いますが、それを乗り越えられて本日のよき日を迎えられました。

4年前を思い起こせば、新型コロナウイルスパンデミックがまだ収束していない中で、受験勉強を克服されました。いざ入学すると先輩は1学年のみ、学生食堂では会話禁止、クラブ活動も制限され、かなり寂しい牧野学舎で、逆境の中を過ごされ、これらを乗り越えられた訳で

あります。

皆さんは、いろいろな動機や夢を持って、理学、作業療法士を目指されたでしょうが、いざ入学してみると医学の勉強量の多さに戸惑われ、挫折しそうなこともあったと思います。



祝辞を述べる飯田学部長

しかし、今になると山登

りと一緒に、一步一步踏みしめているうちに、気がつく  
と見晴らしが少しきくところに立っているのを、感じて  
おられるのではないのでしょうか？

これからは、自身が選んだ仕事で障害をもった患者さん  
など、人の笑顔に接することができます。しかし、楽  
しいことばかりではありません。病気や障害で悩んでお  
られる方に接することから始まり、思ったように結果が  
出ないこともありえます。しかし、皆さんが真摯に寄り  
添うことで笑顔を見ることができます。

リハビリテーション医学は、多く専門職が関与する  
チーム医療です。今行おうとしている診断や治療などの  
医療行為を自分がしっかり理解しているか、していない  
かを自覚でき、自ら考え協調し行動することが要求され  
ます。

これから臨床の現場に携われますが、特に最初の数  
年間が大切です。新しい環境で苦労も多いでしょうが、  
駆け出し時代に若さと熱意を持って努力すれば大きく実  
を結ぶことができます。ほうれんそうと呼ばれる、報告・

連絡・相談、これは機械的にできるものではありません。  
言い換えれば、単なる教科書的知識の受動的認識能から、  
患者さんを教師とした能動的学習の積み重ねが期待され  
ているわけです。

私の経験からも、卒後数年間のわき目も振らない地道  
な努力によるベクトルの急な立ち上がり角度が、後々非  
常に影響します。

皆さんは本学の4年間で多くの経験を積み、臨床実  
習や卒業研究を通して学ばれました。皆さんの卒業論文  
集を拝見しましたが、実に多方面、基礎的動物実験から  
臨床に直結する最先端機器を使用した研究や詳細な評価  
に基づく疫学的研究など、各分野の専門家である指導教  
官の下、実に立派な研究成果を残されたことに感心いた  
しました。

関西医科大学リハビリテーション学部2期生の皆さん  
が今後、療法士として後輩の模範となるような活躍をさ  
れることを期待して、私の学部長としての祝辞とさせて  
いただきます。

## 最終講義

医 看

### 【医学部】

3月18日(水) 16時から枚方キャンパス医学部棟加多  
乃講堂において、医学部整形外科学講座齋藤貴徳教授の  
最終講義が開講され約100名が参加しました。

齋藤教授は「『脊椎・末梢神経外科とともに歩んだ道』  
—教育、教室運営、そして低侵襲脊椎手術の軌跡—」と  
題して講演。整形外科の総合診療体制整備や、MIST(最  
小侵襲脊椎安定術)研究会の発起人として新術式を確立  
したこと、副学長就任後の教育改革内容を紹介して学生  
教育に尽力してほしいと述べました。

講義後、山下敏夫理事長と木梨学長が挨拶に立ち、主  
任教授として講座を束ねる大任を果たした労をねぎらい、  
これまでの活躍をたたえました。最後に関係者から花束  
が贈呈され、記念撮影の後、最終講義は閉講しました。



記念撮影に収まる齋藤教授(最前列中央)と参加者

### 【看護学部】

3月2日(月) 14時から枚方キャンパス看護学部棟2階  
講義室1において、看護学部こども看護学領域加藤令子  
教授の最終講義が対面およびZoomのハイブリッドで開  
催され多くの教職員らが参加しました。

開講前に、木梨達雄学長が挨拶に立ち、看護学部長・  
看護学研究科長ならびに領域教授としてのこれまでの労  
をねぎらい、今後の活躍を祈りました。

加藤教授は「看護専門職として多様な夢にチャレンジ  
した46年の歩み」と題して講演。「障がいのある子ども  
の災害備えパッケージ」の開発への取り組みなど紹介し  
ました。

最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後、最  
終講義は閉講しました。



記念撮影に収まる加藤教授(前列中央左)と参加者



# 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	1月19日	目標チャレンジ制度優秀者表彰
	<b>4月1日</b>	<b>入職式</b>
	<b>1月9日・3月2日</b>	<b>大学院企画セミナー</b>
	1月13日	ケイトキタガワ氏講演会
	<b>1月20日</b>	<b>看護学部棟絵画設置</b>
	1月22日	セネガル大使来訪
	1月27日	ルワンダ大使来訪
	<b>3月2日</b>	<b>看護学部加藤教授最終講義</b>
	<b>3月5日</b>	<b>看護学部留学オリエンテーション</b>
	<b>3月11日</b>	<b>卒業式</b>
大学	<b>3月11日</b>	<b>研究医養成コース修了証授与式</b>
	<b>3月13日</b>	<b>大学院看護学研究科学位授与式</b>
	<b>3月16日</b>	<b>国家試験結果発表 (医師)</b>
	<b>3月18日</b>	<b>医学部齋藤教授最終講義</b>
	<b>3月23日</b>	<b>国家試験結果発表 (理学療法士・作業療法士)</b>
	<b>3月24日</b>	<b>大学院医学研究科学位授与式</b>
	<b>3月24日</b>	<b>医学会賞贈呈式</b>
	<b>3月24日</b>	<b>国家試験結果発表 (看護師・保健師・助産師)</b>
	<b>4月4日</b>	<b>入学式</b>
	附属病院	<b>1月17日</b>
2月5日		ウオンカン大学医師団訪問
2月5日		消防訓練
総合医療センター	1月17日・3月7日	市民健康講座
くずは病院	1月17日	市民公開講座
卒後臨床研修センター	<b>3月27日</b>	<b>令和8年度臨床研修医・研修歯科医修了式</b>
	4月1日	令和8年度臨床研修医・研修歯科医入職式
看護キャリア開発センター	4月1日	令和7年度専攻医辞令交付式
	2月21日	第2回KMUナースの集い
オール女性医師キャリアセンター	2月12日	子育て医師キャリア支援講演会
	<b>3月5日</b>	<b>女性医師奨励賞・女性医師活躍推進賞表彰式</b>



ケイトキタガワ氏講演会



消防訓練



地域医療連携交流会

## 枚方市駅前花壇の愛称が「関西医大フラワー庭園」に決定

枚方市駅南口前広場花壇の愛称が「関西医大フラワー庭園」に決定しました。令和7年12月18日(木)9時30分から、枚方市役所において本学山下敏夫理事長と伏見隆枚方市長のほか関係者が出席し、ネーミングライツ契約締結式が執り行われました。なお、締結された契約は令和8年4月1日から令和11年3月31日までのものです。



締結式の様子



駅前花壇の様子

# 「施設設備拡充事業資金」の募集のご案内

～日常への感謝を胸に「一流の大学」としての存続と改革へ～  
皆様からのご協力をお願い申し上げます

平素より関西医科大学に対して、温かいご支援、ご協力を賜わり心より厚く御礼申し上げます。

本学は、昭和3年の創立以来慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを「建学の精神」とし、自由・自律・自学の学風のもと、人間性豊かな良医を育成することを「教育の理念」として多くの医師を世に送り出してまいりました。

施設設備の整備状況ですが、附属病院別館建設事業については令和7年3月に着工し、令和9年秋頃に竣工予定です。総合医療センター西館建設計画においても、令和8年度中の着工を目指し、令和10年初夏頃に竣工予定です。今後、教育環境充実のために総合グラウンドの整備も計画しており、100周年に向けてさらなる施設の充実を図ってまいります。

本学が、医学部と看護学部、リハビリテーション学部の3学部を有する医療系複合大学として社会の期待に応えるためにも、今年度も下記のとおりご寄付の募集をさせていただくことになりました。この趣旨をご理解いただきまして、何卒ご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 令和8年度募集要項

### 令和8年度募集要項

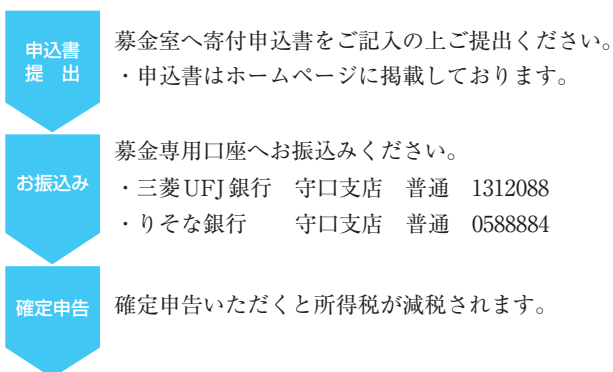
募集主体	学校法人関西医科大学
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和8年4月4日～令和9年3月31日

なお、この募金の応募は任意です。

### 【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室  
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号  
TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344  
メール：bokin@kmu.ac.jp  
WEBサイト：https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

### 募金のお手続き



## 税制優遇措置のご案内

**個人の場合** 課税所得額の控除（所得控除）、又は所得税額の控除（税額控除）いずれかの選択となります。

### 【所得控除】

年間の寄付金額（所得の40%が限度）から2千円を差し引いた額が、課税所得額から控除されます。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{寄付金額} \\ \hline \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \\ \hline \end{array} - 2,000\text{円} = \text{所得控除額}$$

### 【税額控除】

年間の寄付金額（所得の40%が限度）から2千円を差し引いた額の40%相当額が、所得税額から控除されます。ただし、所得税額の25%が限度です。

$$\left[ \begin{array}{|c|} \hline \text{寄付金額} \\ \hline \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \\ \hline \end{array} - 2,000\text{円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額} \\ \text{(所得税額の25\%が限度)}$$

### 法人の場合 【受配者指定寄付金】

寄付金全額が当該事業年度の損金に算入できます。日本私立学校振興・共済事業団を通し、本学を受取先に指定してご寄付をしていただく制度です。

## 令和8年度 医学部教務関係日程表

1学年	
4/4(土)	入学式
4/6(月)～8(水)	新入生健康診断・ガイダンス
4/9(木)	1学期開講
4/23(木)・24(金)	合宿研修
5/2(土)～5/6(水)	休講(5月連休)
6/30(火)	創立記念日
7/17(金)	1学期終講
7/21(火)～8/21(金)	夏季休業
8/24(月)	2学期開講
11/6(金)～11/8(日)	学園祭
12/18(金)	2学期終講
12/21(月)～1/3(日)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
2/4(木)	3学期終講
3/10(水)	卒業式

2学年	
4/6(月)	1学期開講
4/22(水)	学生定期健康診断
5/2(土)～5/6(水)	休講(5月連休)
6/30(火)	創立記念日
7/10(金)	1学期終講
7/13(月)～8/21(金)	夏季休業
8/24(月)	2学期開講
11/6(金)～11/8(日)	学園祭
12/23(水)	2学期終講
12/24(木)～1/3(日)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
1/22(金)・25(月)・26(火)	臨床実習 P2(看護実習)
2/8(月)	3学期終講
3/10(水)	卒業式

3学年	
4/6(月)	1学期開講
4/21(火)	学生定期健康診断
5/2(土)～5/6(水)	休講(5月連休)
5/15(金)	解剖体追悼法要
6/26(金)・7/6(月)・14(火)・15(水)	臨床実習 P3(医療面接入門)
6/30(火)	創立記念日
7/27(月)	1学期終講
7/28(火)～8/21(金)	夏季休業
8/24(月)	2学期開講
11/6(金)～11/8(日)	学園祭
12/18(金)	プレCBT総合試験
12/18(金)	2学期終講
12/21(月)～1/3(日)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
1/4(月)～2/5(金)	リサーチ P3(配属実習)
3/1(月)	3学期終講
3/10(水)	卒業式

※休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

4学年	
4/6(月)	1学期開講
4/21(火)	学生定期健康診断
5/2(土)～5/6(水)	休講(5月連休)
6/30(火)	創立記念日
8/3(月)	1学期終講
8/4(火)～8/14(金)	夏季休業
8/17(月)	2学期開講
9/7(月)～9/8(火)	共用試験 CBT
9/9(水)～10/1(木)	臨床実習 P4a(総合臨床医学実習)
10/2(金)～10/3(土)	臨床実習前 OSCE
10/5(月)～10/9(金)・11/12(木)・13(金)	臨床実習 P4b(医療情報学)
10/13(火)～11/11(水)	臨床実習 P4c(プレクリニカル・クラークシップ)
11/6(金)～11/8(日)	学園祭
未定	白衣授与式
12/7(月)～12/18(金)	臨床実習
12/18(金)	2学期終講
12/21(月)～1/3(日)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
1/4(月)～3/26(金)	臨床実習
3/10(水)	卒業式
3/26(金)	3学期終講

5学年	
3/30(月)	1学期開講
3/30(月)～7/31(金)	臨床実習
4/22(水)	学生定期健康診断
5/2(土)～5/8(金)	休講(5月連休)
未定	クリニカル・クラークシップ中間検討会
7/31(金)	1学期終講
8/3(月)～8/19(水)	夏季休業
8/20(木)	2学期開講
8/20(木)	総合試験①
8/24(月)～12/18(金)	臨床実習
12/3(木)	総合試験②
12/18(金)	2学期終講
12/21(月)～1/3(日)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
1/4(月)～3/26(金)	臨床実習
3/10(水)	卒業式
3/26(金)	3学期終講

6学年	
3/30(月)	1学期開講
3/30(月)～7/17(金)	臨床実習
4/6(月)	学生定期健康診断
5/2(土)～5/8(金)	休講(5月連休)
7/25(土)	臨床実習後 OSCE
7/25(土)	1学期終講
7/27(月)～8/14(金)	夏季休業
8/17(月)	2学期開講
8/17(月)～8/18(火)	卒業試験①
8/24(月)～9/4(金)	まとめの講義(予備・自習含む)
10/14(水)～10/15(木)	卒業試験②
10/16(金)	2学期終講
10/19(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/10(水)	卒業式

看

令和8年度 看護学部教務関係日程表

1~4年次	
4/2(木)~4/3(金)	在学生オリエンテーション
4/3(金)	健康診断(2・3年)
4/4(土)	入学式
4/6(月)	2~4年次前期開講
4/6(月)~4/8(水)	新入生オリエンテーション
4/8(水)	健康診断(1・4年)
4/9(木)	1年次前期開講
4/23(木)~4/24(金)	新入生合宿研修
6/30(火)	創立記念日
7/24(金)~7/31(金)	学期末試験期間
7/31(金)	前期終講
8/8(土)~9/30(水)	夏季休業
10/1(木)	後期開講
11/6(金)~11/8(日)	学園祭
12/23(水)~1/3(日)	冬季休業
2/8(月)~2/15(月)	学期末試験期間
2/15(月)	後期終講
3/10(水)	卒業式

リ

令和8年度 リハビリテーション学部教務関係日程表

1~4年次	
4/4(土)	入学式
4/6(月)~4/8(水)	新入生オリエンテーション・健康診断(1・4年次)
4/6(月)	2・3・4年次前期開講
4/9(木)	1年次前期開講
4/23(木)~4/24(金)	新入生合宿研修
4/27(月)	健康診断(2・3年次)
6/30(火)	創立記念日
8/14(金)	前期終講
8/15(土)~9/30(水)	夏季休業
10/1(木)	後期開講
11/6(金)~11/8(日)	学園祭
12/25(金)~1/3(日)	冬季休業
2/12(金)	後期終講
2/13(土)~3/31(水)	春季休業
3/10(水)	卒業式

※各学部教務関係日程表について、令和8年3月1日現在(変更の可能性有り)

大学関係役職員

医 看 リ

4月1日(水)からの、大学関係役職員体制は次の通りです。

学 長	木梨達雄	医学部教務部長	木下秀文	附属図書館長	伊藤量基
副学長	金子一成	看護学部教務部長	吉田和美	附属生命医学研究所長	日笠幸一郎
副学長	岡田英孝	リハビリテーション学部教務部長		総合研究施設長	薦 幸治
副学長	木下秀文		池添冬芽	実験動物飼育共同施設長	中邨智之
医学部長・医学研究科長	金子一成	医学部学生部長	甲田勝康	アイソトープ実験施設長	谷川 昇
看護学部長・看護学研究科長	三木明子	看護学部学生部長	近藤麻理	入試センター長	中川 淳
リハビリテーション学部長・生涯健康科学研究科長	飯田寛和	リハビリテーション学部学生部長	吉村匡史	教育センター長	西屋克己
リハビリテーション学部 理学療法学科長	市橋則明	大学院医学研究科教務部長	人見浩史	国際化推進センター長	友田幸一
リハビリテーション学部 作業療法学科長	種村留美	大学院看護学研究科教務部長	白井由紀	学 医	蓮尾英明
		大学院生涯健康科学研究科教務部長	中野治郎		

医 看 リ

令和8年度医学部クラスアドバイザー、看護学部学年担任、リハビリテーション学部クラス担任

令和8年度について次の通り決定しました。

【医学部】

1学年	近藤 恵 教授 (行動医学)
2学年	甲田勝康 教授 (衛生・公衆衛生学)
3学年	高田正泰 教授 (乳腺外科学)
4学年	埜中正博 教授 (脳神経外科学)
5学年	里井壯平 教授 (胆膵外科学)
6学年	山崎 誠 教授 (上部消化管外科学)

【看護学部】

1年次	上山千恵子 准教授 (看護学教育領域)
2年次	山本大祐 講師 (在宅看護学領域)
3年次	村内千代 講師 (慢性疾患看護学領域)
4年次	太田祐子 准教授 (看護学教育領域)

【リハビリテーション学部】

理学療法学科	1年次	福元喜啓 准教授	作業療法学科	1年次	中山 淳 准教授
	2年次	池添冬芽 教授		2年次	松島佳苗 准教授
	3年次	野村卓生 教授		3年次	吉村匡史 教授
	4年次	前澤仁志 准教授		4年次	加藤寿宏 教授

# 令和8年度入学試験結果



令和8年度入学試験結果は以下の通りです。

※令和8年4月1日時点

## 医学部入学試験結果

	志願者	正規合格者	入学者
特別枠学校推薦型選抜試験	73	10	10
一般枠学校推薦型選抜試験	187	15	7
特色選抜試験	74	11	9
一般選抜試験(前期)	1,797	167	55
一般選抜試験(後期)	366	5	7
大学入学共通テスト利用選抜試験(前期)	829	100	12
大学入学共通テスト利用選抜試験(後期)	59	2	4
大学入学共通テスト・一般選抜試験併用試験	827	119	8
地域枠一般選抜試験(大阪府)	41	1	1
地域枠一般選抜試験(静岡県)	47	5	4
計	4,300	435	117

## 看護学部入学試験結果

	志願者	正規合格者	入学者
学校推薦型選抜試験(専願制・指定校制)	179	41	41
〈併願制〉	83	15	9
一般選抜試験(2教科型) A日程	309	70	15
B日程	264		
一般選抜試験(3教科型) A日程	402	127	38
B日程	345		
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	151	39	1
〈3教科型〉	179	42	1
〈5教科型〉	111	37	1
計	2,023	371	106

## リハビリテーション学部(理学療法学科)入学試験結果

	志願者	正規合格者	入学者
総合型選抜試験	84	12	12
学校推薦型選抜試験(専願制)	43	19	19
〈併願制〉	27	13	9
一般選抜試験(2教科型)	28	11	5
〈3教科型〉	54	26	10
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	37	25	5
〈4教科型〉	39	27	2
計	312	133	62

## リハビリテーション学部(作業療法学科)入学試験結果

	志願者	正規合格者	入学者
総合型選抜試験	44	12	12
学校推薦型選抜試験(専願制)	17	13	13
〈併願制〉	13	9	4
一般選抜試験(2教科型)	15	15	4
〈3教科型〉	38	34	13
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	24	20	1
〈4教科型〉	13	13	2
計	164	116	49

## 大学院医学研究科修士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
第一次募集	6	6	6
追加募集	1	1	1
計	7	7	7

## 大学院医学研究科博士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
第一次募集	28	27	27
追加募集	19	19	19
計	47	46	46

## 大学院看護学研究科入学試験結果

	志願者		合格者		入学者	
	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程
夏期日程	6	1	3	1	3	1
冬期日程	6	0	6	0	6	0
計	12	1	9	1	9	1

## 大学院生涯健康科学研究科修士課程入学試験結果

志願者	合格者	入学者
13	13	11

## 医師国家試験結果 医

3月16日(月)に第120回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者109名のうち106名が合格し合格率は97.2%、新卒および既卒を合わせた受験者総数では、本学受験者125名のうち117名が合格し合格率は93.6%でした。

## 看護師・保健師・助産師国家試験結果 看

令和8年3月に看護学部を卒業した第5期生は、卒業生109名のうち107名が看護師国家試験に合格、90名が保健師国家試験に合格、さらに選択制である助産師コース卒業生9名の全員が助産師国家試験に合格しました。

看護学部生全員が看護師、保健師の国家試験受験資格を取得できるのは、関西圏の私立大学では本学だけです。医学部・リハビリテーション学部と多彩な附属医療機関を持つ本学ならではの環境、地域を意識した本学独自のカリキュラムや充実したバックアップ体制で、学生を支援しています。

令和8年3月卒業生(新卒者)国家試験結果

国家試験	回数	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均	
					新卒者 (%)	全体 (%)
看護師	115	109	107	98.2	94.1	88.3
保健師	112	109	90	82.6	89.9	87.1
助産師	109	9	9	100	99.8	99.7

## 理学療法士・作業療法士国家試験結果 リ

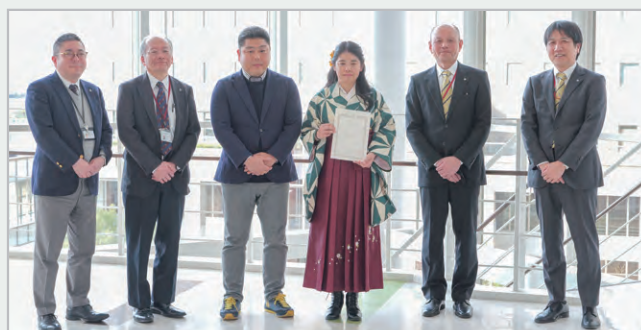
リハビリテーション学部ではキャリア支援委員会を中心に教職員一丸となって、学修を支援しています。令和8年3月の国家試験の結果が発表され、理学療法学科、作業療法学科ともに、2年連続合格率100%を達成しました。

令和8年3月卒業生(新卒者)国家試験結果

国家試験	回数	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均	
					新卒者 (%)	全体 (%)
理学療法士	61	52	52	100	94.9	89.7
作業療法士	61	31	31	100	96.6	91.2

## 研究医養成コース修了証授与式 医

3月11日(水) 15時30分から枚方キャンパス医学部棟4階カフェテリアにおいて、研究医養成コース修了証授与式が行われました。医学部衛生・公衆衛生学講座甲田勝康教授から今後の活躍を期待する祝辞が述べられ、研究医養成コースの課程を修了した医学部6学年1名に修了証書が授与されました。出席者一人ひとりから労いが贈られた後、修了生による感謝と今後の抱負が述べられ閉式となりました。



集合写真

## 研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

# 「高齢者理学療法」の研究

## —健康寿命延伸を目指して—

リハビリテーション学部 理学療法学科 池添冬芽 教授

### ■先生が取り組まれている研究テーマについて教えてください。

私は30年以上にわたり、高齢者の健康寿命延伸をテーマに研究を続けてきました。具体的には、サルコペニアやフレイル、ロコモティブシンドロームの予防に向けた運動トレーニング法の開発や高齢者の骨格筋特性・運動機能に関する臨床研究に取り組んできました。

また、滋賀県長浜市民を対象とした大規模調査「長浜コホート研究」にも携わっており、健康・臨床医学・遺伝子・環境・生活習慣といった多角的なデータベースを利活用した分野横断的な研究を続けています。

### ■どのような研究をされてきたのでしょうか？

私の専門とする高齢者理学療法・地域理学療法分野の学術体系は、未だ発展の途上にあります。例えば、健康寿命の延伸には運動機能の維持・向上が不可欠であると認識されているものの、具体的にどのような運動介入が最も有効であるかについては、依然として不明な点が多いのが現状です。

加齢に伴う筋肉量の減少や筋力の低下は、要介護状態を招く主要な要因となります。筋力の低下は立ち上がりや歩行、段差昇降といった基本動作の能力低下に直結するため、筋力維持・向上に対する積極的なアプローチが大切です。しかしながら、具体的にどの筋肉をターゲットに筋力トレーニングすべきかについては解明されていないことから、私は優先的に鍛えるべき筋肉についての追及を続けてきました。実際に、超音波診断装置を用いて高齢者の下肢筋を調査したところ、加齢による萎縮が最も著しいのは「大腰筋」であることがわかりました。また、「ヒラメ筋」は歩行が自立している高齢者では萎縮が少ないのに対し、歩行困難な高齢者では顕著な萎縮がみられること、さらに日常生活活動量には「中殿筋」が強く関与していることを明らかにしました。加えて、フレイル高齢者を対象とした縦断的な追跡研究からは、歩行能力の低下に「大腿四頭筋」の萎縮が強く関連していることも明らかになりました。これらの知見に基づき、大腿四頭筋(膝関節伸展筋)、大腰筋(股関節屈曲筋)、中殿筋(股関節外転筋)、ヒラメ筋(足関節底屈筋)をターゲット

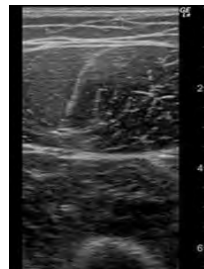


ットとしたトレーニングを推奨しています。

また、加齢に伴い筋肉の「量」だけでなく、筋内に脂肪や結合組織などの非収縮組織が増加するといった「質」の低下も進行します。私たちは超音波画像の筋輝度を用いて筋の「質」を定量的・非侵襲的に評価し、筋の質的变化は筋量減少よりも加齢の早期の段階(筋によっては30歳代)から始まっていることや、筋質の低下は高齢者の筋収縮能力低下を招く重要な要因であることなどを報告してきました。筋機能に大きな影響を及ぼす筋の質の低下を予防するためには、加齢の早期段階から対策を講じる必要があります。筋量に対するアプローチに加え、この質的因子を改善するための効果的なトレーニング法の確立も重要な課題と考えています。

### 筋輝度を用いた筋の質の評価

若年者の大腿四頭筋の超音波横断画像



高齢者の大腿四頭筋の超音波横断画像



超音波診断装置による大腿直筋上の横断画像を示している。高齢者では若年者に比較して筋が白っぽく高輝度にうつる。これは高齢者では筋内の脂肪や結合組織の比率が増加していることを意味する。

## ■長浜コホート研究について教えてください。

高齢者の健康寿命を延ばすためには、多角的な視点から高齢者が抱える多様な課題を捉え、他分野と横断的に連携していくことが求められます。私は、京都大学ゲノム医学センターを中核とし、様々な臨床・社会医学部門が結集した大規模研究「長浜コホート研究」において、運動機能分野のコーディネーターを務めてきました。

長浜コホート研究は、健診事業を通じて滋賀県長浜市民1万人から健康に関する情報を長期的に収集するプロジェクトです。これらの膨大な情報を統合・解析することで、医学の発展と市民の健康づくりに貢献することを目指しています。この学際的な事業は、大学・行政・市民による「産官学民連携」で進められているのが特徴です。私は本事業において、個別の健診結果のフィードバックに加え、研究成果を広く市民に伝えるための公開講座やセミナーを開催し、知見を社会に還元する取り組みにも注力してきました。

この研究基盤を活用し、私はこれまで「ロコモティブシンドローム(ロコモ：運動器の疾患・障害により移動機能が低下した状態)」の予防を中核に据えて臨床研究に取り組んできました。要支援・要介護状態になる原因の多くは運動器疾患・障害が占めており、特に「要支援」の原因ではその割合は半数以上にのぼります。そのため、ロコモの早期発見や予防に取り組むことは、介護予防、とりわけ初期段階での「一次予防」に直結します。私たちは地域在住高齢者を対象に、ロコモの悪化に関連する因子について縦断追跡研究を行い、様々な運動機能の中でも特に「股関節屈曲筋力」がロコモ悪化の重要な関連因子であることを見出しました。この知見から、高齢者のロコモ悪化を防ぐには股関節屈曲筋力を維持・向上することが極めて重要であると考えています。今後も他分野と連携しながら、高齢者研究の発展に寄与する成果を発信していきたいと考えております。

## ■後輩へのメッセージをお願いします。

研究で成果を出すには、多くの苦労と膨大な時間がかかります。たとえば思うように進まなくとも、その「失敗」にこそ学びの価値があります。つまり、それは単なるミスではなく、「うまくいかない方法を一つ発見した」という前進であり、諦めずに努力を続けていれば、ふとした瞬間に新たな道が拓けることがあります。大切なのは、何度壁にぶつかっても情熱を失わず、地道に根気強く挑戦を続けること。自分の可能性を信じる「強さ」を持って、一歩ずつ進んでいきましょう。

### 略歴

平成4年 京都大学医療技術短期大学部 理学療法学科卒業  
 平成4年 理学診療科病院(現 愛仁会リハビリテーション病院) 入職  
 平成6年 京都大学医療技術短期大学部 助手  
 平成15年 京都大学医学部保健学科 助手  
 平成23年 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 講師  
 平成28年 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 准教授  
 令和3年 関西医科大学リハビリテーション学部 教授  
 現在に至る

### 主な競争的研究費採択歴

- 平成15年～平成16年度：科学研究費助成事業 若手研究 (B) 研究代表者  
「虚弱高齢者の身体機能維持のための運動プログラムの開発」
- 平成17年～平成18年度：科学研究費助成事業 若手研究 (B) 研究代表者  
「高齢者の総合的機能向上を目指した複合運動トレーニングの有効性」
- 平成19年～平成20年度：科学研究費助成事業 若手研究 (B) 研究代表者  
「高齢者の生活機能向上および転倒予防のための複合課題トレーニングの開発」
- 平成20年～平成23年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究分担者  
「MRI四次元解析による深部筋収縮動態の評価および深部筋トレーニングの効果検証」
- 平成23年～平成26年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究分担者  
「変形性関節症患者における障害タイプ別理学療法システムの開発」
- 平成24年～平成27年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究代表者  
「加齢による筋内脂肪増加を予防するための筋特性改善プログラムの開発」
- 平成24年～平成27年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究分担者  
「臨床判断力育成を包含した転倒予防のコンピューターシミュレーションプログラムの開発」
- 平成25年～平成27年度：科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究 研究分担者  
「高齢者の筋特性の評価および運動速度可変型筋力トレーニング法の開発」
- 平成26年～平成28年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究分担者  
「超音波エコー画像による高齢障害者の高度萎縮筋の回復予測方法の開発」
- 平成26年～平成28年度：厚生労働科学研究費(長寿科学) 研究分担者  
「変形性関節症の発症・増悪予測スコア作成により要介護を防止する治療戦略構築」
- 平成27年～平成30年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究代表者  
「ロコモティブシンドローム予防のための包括的介入プログラムの開発」
- 平成27年～平成29年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究分担者  
「新たな筋伸張指標を用いた最適なストレッチング法の開発」
- 令和2年～令和5年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究分担者  
「骨格筋超音波画像の周波数解析による新しい筋内脂肪指標の開発」
- 令和3年～令和6年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究代表者  
「骨格筋変性の加齢変化の解明および筋変性予防に効果的なトレーニング法の開発」
- 令和5年～令和7年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究分担者  
「超音波法を用いた筋変性推定モデルの構築と実用性検証」
- 令和6年～令和8年度：科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究代表者  
「骨格筋変性のステージ分類に着目した筋変性予防のための低強度トレーニング法の開発」
- 令和6年～令和8年度：厚生労働科学研究費(循環器疾患・糖尿病等生活習慣対策総合研究事業) 研究分担者  
「身体機能低下の評価及び身体機能低下のリスク要因とその予防法の確立に資する研究」

### 所属学会(役職/資格等)

日本地域理学療法学会 理事(平成26年～)  
 日本運動療法学会 理事(令和4年～)  
 日本理学療法士協会 ガイドライン・用語策定委員会委員(平成27年～令和3年)  
 「理学療法学」[PTR] 編集委員(平成25年～令和6年)  
 日本理学療法学会連合 理学療法標準化検討委員会委員(令和3年～)  
 「地域理学療法学」編集委員(令和3年～)  
 他；日本リハビリテーション医学会、日本予防理学療法学会、日本体力医学会、日本老年医学会、日本支援工理学療法学会、日本運動器理学療法学会、日本基礎理学療法学会会員

## 令和8年3月度大学院医学研究科学学位記授与式

医

3月24日(火) 15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、木梨達雄学長をはじめ大学院医学研究科金子一成研究科長、同中邨智之教務副部長や指導教員らが列席し「令和8年3月度大学院医学研究科学学位記授与式」が挙行され、課程博士12名、論文博士9名、修士7名に、木梨学長から学位記が授与されました。その後の学長式辞では学位取得者の努力を労う激励の言葉が贈られました。最後に修了生代表から謝辞が述べられ、閉会となりました。



木梨学長から学位記を授与される修了生

## 令和7年度大学院看護学研究科学学位授与式

看

3月13日(金) 11時から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、木梨達雄学長、大学院看護学研究科加藤令子研究科長、関西医科大学看護同窓会安田照美会長らが列席し「令和7年度大学院看護学研究科学学位授与式」が挙行されました。式では、木梨学長から博士前期課程の修了生8名、博士後期課程の修了生2名に学位記が授与されました。その後、木梨学長の告辞、加藤研究科長の祝辞が述べられ、修了生たちの学位取得の努力を労い、今後の新たな一歩を祝福する言葉が贈られました。博士前期課程、博士後期課程の修了生の各代表者からは、教職員ならびに研究にかかわった方々への感謝の言葉と

今後の決意が述べられました。



木梨学長から学位記を授与される修了生

## 大学院企画セミナー

医

1月9日(金) 17時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、京都大学大学院医学研究科皮膚科学科梶島健治教授を講師に迎え、令和7年度第1回大学院企画セミナーが開催されました。医学部皮膚科学講座谷崎英昭教授の司会の下、梶島教授が「アトピー性皮膚炎の病態解明から臨床応用」をテーマに講演し、教職員や大学院生ら56名が参加。基礎研究の成果がどのようにアトピー性皮膚炎新規治療の開発につながったかを紹介し、また自身が研究に取り組む際の心構えなどについて語りました。

また、3月2日(月) 17時30分から同会場において、基礎生物学研究所・京都大学阿形清和名誉教授を講師に迎え、第2回大学院企画セミナーが開催されました。医学部解剖学講座北田容章教授の司会の下、阿形名誉教授がこれまで携わってきた「再生研究に学ぶ再生医療」をテーマに講演し、教職員や大学院生ら50名が参

加。プラナリアの成体多能性幹細胞に着目した細胞レベルでの再生メカニズムの研究から、細胞の「位置情報システム」解明により、ミニオーガン(臓器)や個体再生が可能となることを言及しました。

両日とも講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。



講演中の梶島教授



講演中の阿形教授

## 災害看護学領域新設



令和8年4月に看護学部災害看護学領域が新設されました。近年、自然災害や感染症の大規模流行などのさまざまな危機が人々の健康と安全を脅かしています。予測できない危機の中、人々の「いのち」と「生活」を支え、被災地域のレジリエンス(回復力)向上に貢献できる専門性が求められています。災害看護学領域では、非常時だけではなく、平時から地域とともに備え、発災直後の急性期、そして復興期までを支える“連続した看護”を学びます。また、災害をキーワードに、看護学の専門領域全てに関係してくる統合領域でもあります。7分野の高度実践看護師のコースを有する本学大学院の特徴を生かし、他の専門領域と連携し、災害時に対応できる実践力を備えた看護師の育成を目指します。

## 看護学部留学オリエンテーション



3月5日(木)9時30分から枚方キャンパス看護学部棟1階遠隔講義室において、ミネソタ州立大学短期留学オリエンテーションが開催されました。

第一部では、関西医科大学看護同窓会安田照美会長から、留学に参加する学生らへ激励の言葉と留学奨励金が贈呈された後、代表学生による挨拶が行われました。

第二部では、グループでの事前学習内容(アメリカ合衆国における医療制度と保険制度、大学および大学院での看護教育)がそれぞれ発表され、ディスカッションが行われました。学生からは、多文化社会において異なる文化的背景を持つ患者さんに対し、どのような看護が実践されているかを日本の看護と比較しながら学びを深め

ていきたい、帰国後も留学で得た学びをさらに発展させられるよう励みたいなどの意気込みが述べられました。



集合写真

## 看護学部棟絵画設置



1月20日(火)、枚方キャンパス看護学部棟1階エントランスに、日本画家城野奈英子氏が描いた絵画作品《乾流》が設置されました。

### ■城野氏コメント

初めて日展へ出品した思い出深い作品であり、そして初入選を頂けた大切な作品です。学生時代に何度も訪れたインド、世界遺産エローラの石窟寺院近くに流れる小さな川をモチーフとしました。

「乾流」という題名の通り、この川は干上がっても、川底の丸石が跡に残り、かつてそれらを運んだ水の流れを見せてくれます。この川は何処から流れ、何処まで続いているのか…… 考えて筆を進めるうちにいつしか自分の人生、制作に挑み続けるであろうその果てしない道を想像していました。若い自分が画家としての決意を新たに、実際にそのきっかけを与えてくれた作品です。



看護学部棟に設置された《乾流》

## 附属病院 市民公開講座

1月17日(土)13時から、附属病院13階講堂、合同カンファレンスルームにおいて市民公開講座が開催され、154名が来場しました。

松田公志病院長の挨拶後、医学部上部消化管外科学講座山崎誠教授が「酒は百薬の長!? お酒とがんの知られざる関係」と題した講演を実施。飲酒で食道がんが起きやすい理由などを解説しました。続いて、医学部下部消化管外科学講座渡邊純教授が「大腸がんの予防と治療っていまはどうなっているの? ~最新のロボット手術から切らない治療法まですべて解説します~」と題し、定期

的な検査の重要性や術後の化学療法について講演しました。講演後は、参加者から多数の質問が寄せられ、盛会のうちに終了しました。



講演中の山崎教授

## 令和6年度「学生からの教育評価」 関西医科大学教育奨励賞表彰者紹介

本学では、教員の教育活動を奨励しその資質の向上を図ることを目的として、学生による教育評価アンケートを実施しており、令和6年度の講義について学生に教育評価アンケートを集計した結果、高い評価を得た教員に対して「関西医科大学教育奨励賞」が授与されました。

今回、個人(医学部教員部門)で表彰を受けた教員を紹介し、コメントを掲載いたします。

### 2学年1位 解剖学講座 小池 太郎 講師

#### ■担当科目：

**生体の構造と機能 P2b (1)・P2b (2)：**肉眼解剖学講義や骨学実習、神経解剖学講義を通し、骨の構造や神経系、人体の深層への理解を深める。解剖実習の過程においては、学生ひとりひとりのこれまでの経験・体験とも照らし合わせながらご遺体に対し常に深い感謝と畏敬の念をもって接することができるよう、医師としての職責を自覚し倫理観、使命感、責任感を涵養する。



この度は、「学生からの教育評価」において栄えある賞を賜り、光栄に存じます。私が担当している科目では、三次元的な人体構造の理解とともに、膨大な数の専門用語を習得しなければなりません。それと同時に、倫理観や医師になることへの責任感を醸成する重要な役割も担っています。困難な学習内容ではありますが、実習を通じて「理解が深まる喜び」を学生たちに感じてもらえるよう日々指導に当たっております。また、私自身が誰よりも興味を持って実習に臨むことで、学生たちが解剖学に親しみ、その奥深さを共感してくれるものと信じております。こうした日々の姿勢が今回の受賞につながったのであれば、大変嬉しく思います。今回の受賞を機に、医学の基礎知識を教える重責を改めて認識し、より一層教育活動に励む所存です。

### 3学年1位 内科学第一講座 西澤 徹 講師

#### ■担当科目：

**感染症：**ヒトに疾患を惹起する病原体の検出、病態、診断、治療および予防法を学ぶ。

**免疫・膠原病・アレルギー：**免疫応答がどのように制御されているのかという基本的な知識を修得し、免疫の異常に関連する諸疾患(免疫不全・膠原病・アレルギー)の病態生理、症候、診断および治療について概説できることを目指す。



この度は令和6年度関西医科大学教育奨励賞を賜り大変光栄に存じます。担当講義は「発熱と不明熱」「自己炎症性疾患」でした。発熱というシンプルな訴えを医療面接と診察から医学的に紐解き適切な検査をする過程を「SOAP」の順に考え基本を重視して行いました。将来専門分野を持っても医師としての土台は患者さんの訴えを受け止め分析する能力であることを再三お話ししました。高い専門性が患者さんの排除のきっかけになっては本末転倒だからです。ローテク(医療面接・診察)はハイテクと比してコストもかからず一生役立つ技術であり、優れたローテクがあって初めてハイテクも質高く使えることを強調しました。

将来患者さんから選ばれる医師になってほしいという願いを込めた講義が学生さんに届いていたことを嬉しく感じ、一方で医学教育の責任とやりがいを再確認できました。これからも微力ですが医学教育に尽力できればと存じます。

### 4学年1位 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 八木 正夫 教授

#### ■担当科目：

**耳鼻咽喉・頭頸部外科：**聴器、平衡器、鼻・副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、気管・食道および唾液腺・甲状腺を含む臨床解剖・生理を知り、これら器官の疾患の診断および治療法についての概念を習得する。



このたび「学生からの教育評価」において臨床の教員部門第1位という栄誉ある評価をいただき、大変光栄に思っております。本学の卒業生として、また学生時代から将来は医学部生の教育に携わりたいと考えてきた者にとって、このような形で評価をいただけたことは大きな喜びであり、身の引き締まる思いです。授業では、知識を伝えるだけでなく、医学や医療の面白さ、そして医師として学び続けることの意義を少しでも感じてもらえることを心がけています。講義を通じて学生の皆さんの医療への意識を高めるきっかけになればと思っておりますが、実際には私自身が学生から教育へのモチベーションをいただいていることを感じています。今回の評価に深く感謝するとともに、今後も学生の皆さんとともに学び続ける姿勢を大切にしながら教育に取り組んでまいります。

## 第25回 関西医科大学医学会賞

令和7年9月20日(土)、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、第25回関西医科大学医学会賞の応募口演が行われました。選考の結果、選ばれた3名には、3月24日(火)15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂および同日16時30分から枚方キャンパス看護学部棟2階会議室で行われた贈呈式にて医学会賞が授与されました。

### 1位 医学部内科学第二講座 Tran Thuy Huong Quynh 研究医員

#### ■演題「Characterization of Cytoskeleton, Endoplasmic Reticulum and Organelle Interactions of INF2 Variants Causing Glomerulopathy and Neuropathy」

この度は、関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。この榮譽ある賞に心より感謝申し上げます。  
私の研究は、細胞骨格の調節や小胞体と他の細胞小器官との相互作用維持に重要な役割を果たすINF2遺伝子の疾患関連変異に焦点を当てています。この研究を通じて、細胞内構造と機能を維持するために必要な複雑な協調作用について深い理解を得ることができました。わずかな分子の変化でさえ、細胞の恒常性を著しく乱し、最終的に疾患を引き起こす可能性があります。これらの研究成果を発表し、本賞をいただいたことは、励みになると同時に身の引き締まる思いです。複雑なヒト疾患の理解を深める上で、基礎研究の重要性を改めて認識させられました。

指導教員、同僚、そして共同研究者の皆様には、多大なご指導とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。皆様のご指導とご支援なしには、この成果は達成できませんでした。この受賞は、基礎細胞生物学と臨床医学を繋ぐ研究を今後も追求していく上での大きな励みとなります。私は、これらの疾患に苦しむ患者さんのために、医学の発展とより良い治療法の開発にさらに貢献できるよう努めてまいります。



### 2位 医学部産科学・婦人科学講座 吉田 彩 診療講師

#### ■演題「Changes in the conflicting nongenomic effects of progesterone in rat myometrium during pregnancy」(ラット子宮筋におけるプロゲステロンの相反する非ゲノム作用の妊娠中の変化)

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究では、妊娠中の子宮筋におけるプロゲステロン(P<sub>4</sub>)の即時性作用である非ゲノム作用について検討しました。P<sub>4</sub>により誘発される周期的子宮筋収縮は、妊娠初期から満期に向けて膜型プロゲステロン受容体(mPR)βに依存して増加し、陣痛発来や分娩進行への関与が示唆されました。一方、強直性収縮に対する抑制作用は妊娠期間を通じて一定で、他のmPRを介して妊娠維持に関与する可能性が示されました。今後この受賞を励みに研究を継続してまいります。最後に、本研究にあたり御指導いただきました安田勝彦先生、岡田英孝教授、ならびに産婦人科学講座の先生方に心より御礼申し上げます。



### 奨励賞(プレゼン大賞) 看護学部慢性疾患看護学領域 水野 光 助教

#### ■演題「Structure of Nursing Practice Abilities in the Assessment of Inflammatory Bowel Disease Activity (炎症性腸疾患活動性評価における看護実践能力の構造)」

この度は関西医科大学医学会賞奨励賞(プレゼン大賞)を賜り、大変光栄に存じます。炎症性腸疾患(IBD)専門外来での臨床経験から、博士後期課程にてこちらの研究に取り組みさせて頂きました。IBDの個別に応じた看護を組み立てることの難しさから本研究に着手し、IBDの疾患活動性に基づく看護実践能力の構造を導きました。医学会賞でのプレゼンが審査員の先生方に評価して頂いたことを励みにし、看護学に貢献できるよう引き続き研究を積み重ねてまいります。

最後に、本研究にあたり多大なるご指導を賜りました瀬戸奈津子教授、三木明子教授、青木早苗教授(高知県立大学)、長沼誠教授、そして慢性疾患看護学領域の先生方にはこの場を借りて深くお礼申し上げます。



卒後臨床研修センター 

## 令和7年度臨床研修医・研修歯科医修了式

3月27日(金)16時から、附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、「令和7年度臨床研修医・研修歯科医修了式」が挙行されました。附属病院松田公志病院長から同院所属の研修医47名に、総合医療センター杉浦哲朗病院長から同院所属の研修医7名にそれぞれ修了証が授与されました。続いて、松田病院長、杉浦病院長から式辞、卒後臨床研修センター伊藤量基センター長から祝辞が述べられました。最後に研修医を代表して福島快さんが答辞を述べ、穏やかな雰囲気の中、閉式しました。



祝辞を述べる伊藤センター長

## 令和7年度女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式

3月5日（木）17時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、令和7年度女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式が、オール女性医師キャリアセンター植村芳子センター長列席の下、行われました。女性医師奨励賞は、本学に勤務する女性医師を対象に、教育・研究・診療の分野において、業績が極めて顕著である者を表彰するもので、女性医師のモチベーションの維持と向上を図り、さらなる活躍を支援することを目的としています。また女性医師活躍推進賞は、本学における女性医師の活躍推進に取り組む講座等の団体による活動内容を顕彰することにより、女性医師が安心して働くことができ、医師としてのキャリアを継続できる職場環境整備の普及啓発を図り、継続的な活動を支援するために創設されたものです。



表彰式後の集合写真

列席した表彰者3名と表彰団体代表者1名に、植村センター長から表彰状や記念品が手渡され、表彰者のそれぞれの活躍を称え、この受賞を機に誰もが働きやすい環境作りをさらに推進してほしいとの声援が送られました。

### 女性医師奨励賞（アプリコット賞）

#### ● 診療部門

天満橋総合クリニック 大宮 美香 院長

コメント：この度は栄えあるアプリコット賞をいただき、誠にありがとうございます。長らく附属病院や香里病院で消化器内科医として臨床に携わってきましたが、令和4年からは天満橋総合クリニック院長としてクリニック運営に奔走しております。管理者として全く未経験だった私が現在あるのは、支えて下さっている諸先生方やスタッフのおかげだと日々感謝しております。今回の受賞を励みにして、皆がもっと働きやすい職場になるよう尽力してまいります。

#### ● 研究部門

附属病院 歯科・口腔外科・口腔ケアセンター 兒島 由佳 センター教授

コメント：このたびはアプリコット賞を賜り、誠にありがとうございます。身に余る光栄であり、ご指導いただいた先生方、支えてくださった皆様に関心より御礼申し上げます。私は臨床を中心に歩んでまいりましたが、卒後20年を経て大学に赴任し、研究・教育にも携わる機会を与えていただきました。今後も日々の実践と学びを大切にしながら、男女問わず活躍できる環境づくりに少しでも寄与できればと思います。

#### ● 研究部門

皮膚科学講座 田嶋 安紀 助教

コメント：この度はアプリコット賞を頂戴し、大変光栄に存じます。ご指導くださった先生方、先輩・同僚・後輩、そして家族の支えがあってこそこの受賞であり、心より感謝申し上げます。臨床で取り組んできた皮膚腫瘍を新たな視点から捉え、研究として形にする機会を得られたことをありがたく感じております。研究年数はまだ浅いものの、その楽しさとやりがいを日々実感しており、本受賞は大きな励みとなりました。これを新たな出発点とし、真摯に取り組みを続けていきたいと思っております。また、微力ながら、働きながら研究を続けられる環境づくりにも貢献できれば幸いです。

### 女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）

皮膚科学講座（代表：谷崎 英昭 教授）

コメント：この度は、関西医科大学女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）をいただき深く感謝申し上げます。女性医師の多い当講座では、規定の産休・育休期間のみならず、その後も続く子育て中も一人一人の目指すキャリア形成に臨めるように支援しています。お互いに支えあうことが基本ではありますが、支える側の負担が大きくなりすぎるような日々工夫をしており、取り組みの成果を評価していただけたことは大変励みになります。今後も多種多様な働き方に対応しながら、いきいきと働く女性医師の姿を学内外に届けられるように取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 学会主催報告

令和7年10月～令和8年3月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

### Best of SABCS® 2025 in Kyoto

■会期 令和8年2月7日(土)～8日(日)

■場所 オンデマンド配信

本会は、乳癌領域最大級の国際学会である San Antonio Breast Cancer Symposium の注目演題をレビュー・討議する公認プログラムとして、2020年より毎年開催しております。今回は国内のkey opinion leader約50名が参集し、予防・診断、手術療法、薬物療法、サバイバーシップ、トランスレーショナル/基礎研究まで幅広い領域で活発な議論が交わされ、盛会に終了しました。

【世話人：医学部乳癌外科講座 高田 正泰 教授】



### 第53回日本救急医学会総会・学術集会

■会期 令和7年10月28日(火)～30日(木)

■場所 大阪国際会議場

■テーマ 救急医学がデザインする“いのち輝く未来社会”とは

第53回日本救急医学会総会・学術集会を、日本の救急医療発祥の地、大阪で8年ぶりに開催しました。本会は、設立当初から今日に至るまで“経験から科学へ”を是とし、現状に満足することなく常に新しい世界を切り拓く姿勢を貫いてまいりましたが、今回は直前まで開催されていた大阪・関西万博2025のテーマを、救急医学の立ち位置からあらためて思案する企画を中心にすえました。計1,700余演題、6,500余名の参加者が集まる実りある学術集会となりました。

【大会長・理事：医学部救急医学講座 鉦方 安行 教授】



## 学会賞等受賞情報

令和8年1月～3月の学会賞受賞者等を紹介いたします。

### 2025年度日本消化器内視鏡学会英文誌学会賞

医学部内科学第三講座 池浦 司 准教授

■テーマ 「Complete clearance of painless pancreatic stones with endotherapy prevents the progression of pancreatic parenchyma atrophy in patients with chronic pancreatitis: Multicenter cohort study」

■授与団体 日本消化器内視鏡学会

■コメント この度は2025年度日本消化器内視鏡学会英文誌学会賞を受賞でき、大変光栄に存じます。この英語論文は、国内の24施設から集めたデータを用いて、症状のない膵石を伴う慢性膵炎患者への内視鏡治療のメリットとデメリットを解明したもので、今後のガイドラインや治療指針改訂に寄与する研究であると考えています。本研究の遂行にあたりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



### Best Oral Presentation Award

医学部肝臓外科学講座 小坂 久 講師

■テーマ Preoperative factors associated with early oncological futility after hepatectomy for hepatocellular carcinoma. A Korea-Japan collaborative study

■授与団体 The 64th Annual Congress of the Korean Association of HBP Surgery (HBP Surgery Week 2026)

■コメント 本研究は、日韓共同の大規模多施設研究として約1万人の肝細胞癌切除症例を集積し、術前情報のみに基づく早期再発リスク予測モデルを構築したものです。特に術後早期に再発・死亡へ至る高リスク群を同定し、手術適応の再考や集学的治療戦略の重要性を示しました。本研究にご協力いただいた国内外の共同研究者の先生方に深く感謝申し上げます。



### 最優秀賞

リハビリテーション学部作業療法学科 林 良太 助教

■テーマ 「児童思春期のうつ病における自殺企図に関連する因子の検討 ―精神科電子カルテ分析ソリューションを用いて―」

■授与団体 第11回日本精神・心理領域理学療法学会学術大会

■コメント この度、第11回日本精神・心理領域理学療法学会学術大会にて「最優秀賞」を受賞いたしました。本演題では、児童思春期のうつ病における自殺企図の危険因子を探索的に検討し、生活に関連した因子を明らかにしました。ご指導いただいた共同演者の先生方、そして私を支えてくれる家族に感謝申し上げます。今後も患者さんや社会に還元できるような研究を進めてまいります。





## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。(主に令和8年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

## ■ テレビ等

医学部衛生・公衆衛生学講座 藤田 裕規 准教授	日本テレビ「DayDay」 (1月21日)	藤田准教授らが発表した納豆の接種頻度と死亡リスクの関連についての研究が取り上げられ、オンライン取材の様子が放送されました。
医学部放射線科学講座 中村 聡明 診療教授	テレビ東京「ガイアの夜明け もう一つのエピソード」 (2月27日)	放射線治療を取り上げた番組に中村診療教授が出演し、放射線治療の需要増に対して医師が不足している現状について「全国で放射線治療医を増やしたいという大きな目標のために活動している」とコメントした様子が放送されました。
リハビリテーション学部 理学療法学科 田頭 悟志 講師	NHK大阪「はっと関西」 (3月13日)	パラリンピック日本代表選手5名を支えている田頭講師の研究が紹介され、インタビューの様子が放送されました。

## ■ WEBメディア等

医学部衛生・公衆衛生学講座 村上 由希 講師	CBnews、日経バイオテク (2月18日)	村上講師らの研究チームが、魚由来のタンパク質を摂取すると加齢に伴う短期記憶の低下を予防する効果があることを明らかにした研究結果を公表したことが掲載されました。
総合医療センター 中森 靖 副病院長	読売テレビニュース (3月1日)	本学も共同開発に携わり総合医療センターに導入したAIにより患者の急変を予測するシステムについて中森副病院長が取材を受け、システムの使用感や医療現場におけるAIの広がりについてのコメントが掲載されました。
附属病院眼科 佐々木 香る 病院教授	メディカルトリビューン (3月3日)	佐々木病院教授が「角膜カンファランス2026」で抗体薬物複合体(ACD)治療に伴う眼障害の現状を解説し、新規抗がん薬を有効に使用するためには多方面との診療連携が必要であると訴えた旨が掲載されました。
医学部薬理学講座 平井 希俊 講師	OPTRONICS ONLINE (3月13日)	平井講師らが、細胞にかかる目に見えない「力」を、「色」の変化としてひと目で分かるようにする新しいセンサーを開発したことが掲載されました。
医学部精神神経科学講座 加藤 正樹 教授	ケアネット (3月16日)	加藤教授が作成ワーキンググループの代表・責任者を務めた「うつ病診療ガイドライン2025」の「改訂の背景と概要、重症度別の治療」について、改訂のポイントが加藤教授のコメントと合わせて掲載されました。
医学部精神神経科学講座 加藤 正樹 教授	ケアネット (3月17日)	加藤教授が作成ワーキンググループの代表・責任者を務めた「うつ病診療ガイドライン2025」の「治療過程のフェーズ別の治療、サブタイプ・ライフステージ別の治療」について、改訂のポイントが加藤教授のコメントと合わせて掲載されました。
医工学センター ジュセッペ ベツツォッティ 学長特命教授	Alanewsit (3月23日)	ベツツォッティ学長特命教授が開発した、口腔病をはじめアルツハイマー病にも影響するポルフィロモナス・ジンジバリス菌の産生毒素を瞬時に不活性化できるセラミック粉末について、第99回日本細菌学会総会で発表したことが掲載されました。
附属病院がんセンター 朴 将源 センター診療講師	毎日新聞オンライン (3月24日)	朴センター診療講師らのグループが、コーヒーに含まれるポリフェノール成分「カフェ酸」が大腸がん細胞の増殖を抑制する仕組みの一端を明らかにしたことが紹介されました。
医学部衛生・公衆衛生学講座 村上 由希 講師	QLifePro (3月24日)	村上講師らの研究チームが、魚由来のタンパク質を摂取すると加齢に伴う短期記憶の低下を予防する効果があることを明らかにした研究結果を公表したことが掲載されました。

## ■ 新聞・雑誌等

医学部小児科学講座 石崎 優子 診療教授	朝日新聞 朝刊 (1月14日)	市販薬の過剰摂取(オーバードーズ)を取り上げた記事で、オーバードーズが広がった背景や対策についての石崎診療教授のコメントが掲載されました。
附属病院新薬開発科 清水 俊雄 センター教授	国際医薬品情報通巻第1291号 (2月9日)	清水教授へのインタビュー記事で、日本・アジア初の国際がん新薬治験拠点となる合同会社NEXT Oncology KUMU JAPANを設立し、がん新薬治験に取り組んでいることが掲載されました。
医学部呼吸器腫瘍内科学講座 池田 慧 准教授	朝日新聞 夕刊・デジタル (2月10日)	がん経験者の活動や両立支援を紹介する記事で、日本肺癌学会教育研修委員会委員である池田准教授による医療従事者が果たす役割についてのコメントが掲載されました。
医学部腎泌尿器外科科学講座 谷口 久哲 講師	読売新聞 夕刊 (2月17日)	連載企画「医なび」のテーマで男性の更年期障害が取り上げられ、専門的な治療や診断を行う機関として関西医科大学附属病院が紹介され、谷口講師が男性にも更年期障害が起こることを知ってほしいと啓発するコメントが掲載されました。
金子 一成 副学長・医学部長	リビング尼崎・伊丹1800号 (2月18日)	「未来の医療を切り開く力」と題し関西4私立大学医学部長にインタビューした記事で、金子医学部長が本学の建学の精神やカリキュラムの特徴、求める人材などについて語りました。
看護学部こども看護学領域 大橋 敦 教授	大阪府医ニュース第3137号 (3月4日)	大橋教授が「令和7年度第2回新生児の蘇生講習会」で講演し、救命の流れを解説したことが掲載されました。
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授	大阪府医ニュース第3137号 (3月4日)	三木教授が「第11回大阪府訪問看護シンポジウム2025」に登壇し、ハラスメント事例を提示しつつ、対応策などを解説。マニュアルの作成の重要性を訴えたことが掲載されました。
医学部薬理学講座 平井 希俊 講師	日刊工業新聞 (3月12日)	平井講師らが、細胞にかかる目に見えない「力」を、「色」の変化としてひと目で分かるようにする新しいセンサーを開発したことが掲載されました。
医学部精神神経科学講座 加藤 正樹 教授	読売新聞 夕刊 (3月14日)	うつ病の診療指針改定を取り上げた記事で、改訂責任者である加藤教授による「患者ごとに症状や効果は異なる。治療内容を見直し、方向性を明確にすることで早期の回復につながる」とのコメントが掲載されました。
総合医療センター	河内新聞 (3月25日)	3月7日(土)守口文化センターで開催された市民健康講座の内容が写真付きで掲載されました。
附属病院がんセンター 朴 将源 センター診療講師	日刊工業新聞 (3月25日)	朴センター診療講師らのグループが、コーヒーに含まれるポリフェノール成分「カフェ酸」が大腸がん細胞の増殖を抑制する仕組みの一端を明らかにしたことが紹介されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

桜が満開になるとともに新年度がスタートしました。  
春のぼかぼかした気候は、明るい気分させてくれます。  
最近では歩くことにハマっています。暑くなる前に、JR環状線と山手線を一周歩いてみたいです。(Y)

## 関西医科大学広報 Vol.73

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 広報戦略室  
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>  
E-mail:kmuinfo@kmu.ac.jp

令和8年5月15日(金)発行